化政教白題巻

へ 5
4429
4

門へ5
號4429
卷4

昭和九年
九月二九日
購求

俳諧発句題叢 乾 總目録

乾之上

十月初　俳言月二
小春　俳言
俳諧四　連歌系

俳諧　十初
俳言　炉開
付開九　久付句十三
松風付句　出まず
初水　蔦葉十七
敷茶葉　木葉十九

付開月
俳茶色
芭蕉系
夷講六
茶口切
秋付句十四
初霜
折蔦葉十八
風二十

小春
初冬
神会講五
神取越
初付開七
川辺付開十五
初雪
浪杏蔦葉
乾木立廿二

培覚

毛桃 廿三
桃柏
桃芦
桃雞頭
桃苟
桃蕓
桃花
桃把花 廿二
麦斉
毛虫
竹筍
霧桃
桃芝
桃蕨 廿七
桃菊 廿八
桃蕨
桃蓋
桃蕨
毛菊
心葉花 廿一
毛牡丹
毛槐
水魚 廿六
子乃 廿七
霧桃 廿四
桃尾花 廿五
桃蕨
桃苟
桃蕨
毛菊
心葉花 廿一
毛牡丹
毛槐
水魚 廿六
子乃 廿七
桃柳
毛芒 廿六
桃蓮
桃蔓
桃蕨
毛蓋 廿九
帰花
葉花 廿四
毛蟹蜂 廿五
紫漢
鳴 四十
鴨 四十一
鵜鶏 四十三
象 四十五
水乃
鵜鶏
鳥 四十二
鈴鴨
海葉乃 四十四
毛蛍 四十六
鶯
木兎
蛍子鳴
霧 四十七
毛美
芝花顔尺也
髮置 四十八
清着
毛虫
子乃
子蛍人
吹華乃
毛也忘
沖敬 五十
星祢乃 四十九
霧 五十二
大師講 五十一
清仏子
霧花
霧花 五十三
霧蕨 五十四
霧桃
霧花
霧蕨 五十五
霧 五十六
霧蕨 五十八
夜雪 六十
月花雪 六十一
霧雪 五十九
深雪 六十二
心雪

峯雪 六十三　谷雪　林雪　水雪
東雪 六十四　海雪　浦雪　魚雪
川雪　江雪　星雪　庭雪 六十五
雪見　雪礫　雪鳥　雪仏
雪兎　雪吹　雪崩　雪岑
雪車　雪垣 六十六　雪竿　氷
鳥氷 六十七　星氷　氷柱　畜氷 六十八
流氷　霰 六十九　霜柱　凍
雲　霜降　雨 七十　雨 七十一
煮氷　雪降花　薬喰　鶏卵酒
生姜酒　麦湯　胸 七十二　脇

霜月　沈　水紀
冬菊 七十三　石蕗花　早梅 七十四　櫂撥
冬梅　冬桜　梅花 七十五　宮咲梅
冬桂　梔花 七十六　生姜嵐　梅花
紅　七十七　雑鶏 七十八　鶏　絲
乾鮭　鶏 七十九　壮蛎
鷹 八十　冬苦瓜　度瓜　杜夫魚
冬苦瓜　冬瓜　冬瓜　教茶
冬瓜　于菜　大根蔵 八十一　大根蔵 八十二
風呂吹　白菜　生姜塩 八十三　沈漬

冬之下
師走金 八十四　師走月 八十五　事始　臘八
仏名会 八十六　寒声 八十七　寒夜
寒の入 八十八　寒の内　寒垢離　寒念仏
寒参 八十九　寒造　角力寒取　寒施
寒紅　寒水　岡見　冬の日 九十
冬の蝿 九十一　冬枯　冬構 九十二　小忌寒
冬の霧　冬の月 九十四　寒の月 九十七　榾 九十八
炭竈 九十九　炭　炭売 百一　囲炉裏
火鉢　火桶　巨燵 百二　巨燵櫓
埋火 百三　煖炉　湯婆　衾 百四
紙衣 百五　蒲団 百六　綿子　綿帽子
頭巾 百七　足袋　冬の雲　冬の夜 百八
冬の山　冬の池　冬の原　冬の海
冬の川 百九　冬の田　札納 百十　衣配
煤掃　餅搗 百十一　砥餅　餅花
年貢　年木樵　書出　掛乞 百十三
節分　年越　厄払　柊刺
鰯刺　節季候　年内立春 百十四　年市
羽子板売 百十五　穂長売　門松売　歯朶売
[illegible]乃木　門松立　古暦　暦売
鯛味噌　年忘　年守 百十六　年用意

年の門　年鹿　去近　去行
来る年　百七　年雲　年雪　年暮
外年　百八　明年　百九　大晦日　除夜　百十
年梅　年鶴

千日詠絶

俳諧發句題叢冬上

椿丘太祇輯

十月　十月の山に月合すも因か　春亜
十月や横ハ花の木ゝ枯り　樗屋
十月や柳ニ筋に月ゝ　年六
十月や蓼くの色あり　文左
十月や色りくに月ゝ白　宋英
十月ハ雨ゝ梅のさく　完来
十月ハ雨ゝ白花人の色あり　月化
十月ハ井に花のゝ和ゝ　花ゝ　寒雨
十月ゝ雲ゝ山ゝ花ゝ和ゝ　玉房

[illegible]

[illegible]人迂道を[illegible]る　麦秋　来来

[illegible]を見上る桑大木　飛風

[illegible]の[illegible]　一瓢

[illegible]るに[illegible]和如　枝長

[illegible]の白れ[illegible]る　能な　世界

[illegible]三度の白れ[illegible]　其米

[illegible]ふさ[illegible]　寺　家慈

[illegible]人[illegible]る[illegible]の木　秋色

[illegible]り　山雪　[illegible]

[illegible]れて[illegible]れ　[illegible]　南源

[illegible]のつ　[illegible]

[illegible]

[illegible]他[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]日[illegible]　[illegible]

小[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]国[illegible]　[illegible]

[illegible]狭[illegible]　[illegible]

[illegible]白[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

的白　[illegible]

小　春　[illegible]

魚釣の編笠[illegible]　小春

[illegible]一日[illegible]　小春

[illegible]の笑ム　小春

[illegible]　[illegible]

[illegible]の雅なる小きわ
人なて小きめそる鴻巣か
ひるのひの炎うも小きか
雪の後そうりそり小きひ
よう人の忘てさる小きか
猪鹿の小き機廻に出そう
大名のもちそうく小きか
苦人の鼠のくそうれ小きか
小産臥の桶投てゐる小きか
ようなれハ箕たうく小きか
百姓のそのすうる小きれ

白雄　姫九　百下　柳亜　朱白　朱笑　仝　道竜　仝　魯隠　竟松

酒呑に陰へあるれハ水の小き
ひるそれそれまれなる小きか
梨子れ木地柳に子の手れ小きか
ぶりれ出て森淡さつむ小きか
長ちる良や小きの長ちて
見ちるにれよそれ花上小きか
淡持のぬくくれ鳥小きか
ひれの乾れ自上小きれ
ひるれ後にりの子小きか
枕井を伐れと其上小きか

俳諧女　柳　左節　玉屑

小六月

生酒蔵に出そう小春

其半　護物　右雄　柳月　玄雄　芝ひ　樹翠　良蒙

一葉　飛日
落花　双鳥
垣丸　紫英
苔屋　竟松
晩竟　蔓古
垣丸　南岳

冥々　椎翠
使客　柴布
角米　蔓古
紫多　万和
蔓古　内統
保吉　竟厚

芭蕉忌

遠ク忌や[illegible]
遠ク忌や[illegible]
遠ク忌や[illegible]
[illegible]
[illegible]
風に古人の[illegible]
[illegible]
雲に那て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

完来
[illegible]
乙二
惟平
[illegible]
合
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
何白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一茶
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

九董
白雄
春亜
朱美
道美
素迪
月紀
今
一茶
護物
至雙

恵比須講

笑意
柳几
大江丸
道美
完和
女流几
素甫
代宏
探梅
伊勢
佳夕
探美
幸水

春雨
春元
越
非迂
炉
風

炉開のかゝしゆゝや落葉　百川

炉開や市の風さへ松の枝　重厚

炉開やよれ〳〵に茶の奥　淡々

口切や海苔の便も庵の窓　萬左

口切や去年より良き茶の風　来九

にほひされハ字千代ありし哉　尺文

茶口切

肉の気ハ老鸞の毛や初時雨　柳几

初時雨

翁りハちりまじりや初時雨　並可

箕尾の垢さりけりし初時雨　仝

多摩の乗る船の縁や初時雨　多藤

初時雨の只市人さらく時雨哉　也足

秋の気のすかしとすれハ初時雨　樗良

楼太らし松すりの苔初しくれ　萬左

一葉松とゆきり初時雨　白雄

ろの人語と詠しん初しくれ　青蘿

初時雨相ハ木やもぬれにけり　春曲

欠菴の看れハそつれ初時雨　蹊石

初時雨名の侍まても枯かな　斗入

初時雨みちる舟にてはかな　士朗

初時雨いろいろに葉も絶て　樗堂

坊主の坊も出て見け初時雨　仝

いたむれ屏風見て居り初時雨　丈左

よりあへる山桝さくれや霜かるゝ　巣兆
霜かるゝ草粥の後にふ足え　兄直
霜かるゝ下のこゝかれも枕かなし　乙彩堂
かゝるに来て人まりや霜かるゝ　全
打さとる身ともみえて霜かるゝ　甘谷
なのくさる首のさかさに霜かるゝ　菁之
ふるさとハ皆ちりて霜かれ　一斗
山人ハ木を十し霜しかれ　乙二
石蕗ハ花も芒ハ枯て霜かれ　其く
山里ハおのふ信へ霜かるゝ　月花
時雨る屋て庭さ乎霜かるゝ　全

草に淀もまだ影ありりて霜かるゝ　蒼虬
長流まで友まもなゝり霜かるゝ　月化
我来に人をすり霜しかれ　岳輅
まりし手美に入ねや霜かるゝ　李闘
つ芽の祖父ハ下戸にて霜かるゝ　塊翁
枝つゝはたゝれ我かれ霜かるゝ　常些
なつかしよ世の新しや霜かるゝ　等先
花ふむほとも葉もあり霜かるゝ　一葉
霜かるゝ河添るれ止にかゝり　寛松
霜かるゝ鶯来の首途す　彦人
霜かるゝ人ハ古朽木に古山木に　幽嘯

大仏殿の鬼も笠を着て初がる
碧の坂のぼり来りて初がる
江の上に人ぞ初しぐれ
初しぐれ為をぬきまとうこと
初がるこれ素堂の蘭か
京都まていくそ初しぐれ
志賀者れはさもあれ文あり初がる
初がるあちらこれ人の来る
二十人のつりめこん初がる
丁子の茶をあるを茶や初がる
時しものふるさと初しぐれ

卓池
井肩
武陵
及芳
志宁
雲芳
鶴翁
支坑
きく
了國
松石

付　自

大粒のあめつちや初しぐれ　尾張　逸人
初がるこれ新酒の樽　若雄
栗あんのもて来たり初がる　美芳
すき花に智恵のはたらき初がる　梅史
小さな夫婦もさそなたり初がる　伊勢　江牛
初がる花の泪を見て通る　信中　京市
松にはあつらへの初がる　一雄
学の神に来て初がる　芳市
さし越や浜の初がるのめれ　梵雲
沖の雲下がるのぼりの亡　全
沖なる気見に入ハ初がる　几董

しらてやあやつ巻のたより　白雄
つれ変てりやかるの霧文巻　保吉
大方の旅しらてかるくり　盛吉
きてやうふ紙しらる業の上　仝
物点やきてしたの子れ子　陵石
しらと巻のあの以かるか　半入
見方ハ木るやるかる　大江丸
さ井にさやくさるかる　士朗
書鶏うくやかるの先しと　仝
拓作か星やかるの雪れ　仝
松あれかるるのさたり　抑庭

かるてもくさるれ　張六
箭さハかるる絵る花小田の丁　春亜
きれり先へやて雪　雪堤
星花左右れ立たるかるか　渕江
しれ素ぬさ変れハ　弗云
きれと陽人や長か　长楽
しさや れりきれ塔のさ　木僊
いさくう世のりくかるか　樗屯
物のあさ差たさ入かるか　仝
たつ因の話やかるの渕さり　業光
しさや一塔さて唯の松　仝

宋英　　
仝　　
有山　　
義重　　
仝　　
鬼孫　　
一子　　
仝　　
宗郷　　
道義　　
仝　　

岳雅　　
仝　　
尺文　　
长高　　
堀義　　
常盛　　
半高　　
寿閑　　
宗雅　　
宗松　　
尊源　　

拾遺　　又　　
篤信　　石河
斎人　　士清
万和　　
善之　　
妙世　　
晃和　　
柳僕　　
快春　　
秋久　　
高項　　

ありそうの柳の古木を尺ばかりの
京道の一叢をそうしてれば
杉のうくと尺ばかりのうつり
音をあれさりをしてそれ
ある家ハ尺と家ばかりなる
鏡ばかり雑草なるば
しるべや猪に拾れしの
森見えてもあるを何のの
あるを海をてつれて通るば
塩麦の海掃てあるば
世に生く何ばに迄ば年ば

又　　
石河　　
士清　　
美蔭　　
秋亮　　
柳支　　
上田　　
康古　　
浅海　　
李長　　
戸　　
粗文　　
伊賀　　
猛来　　
樹翠　　

あれくし　蓋兼貞　何百わ　坂中　壺仙
芋の葉も何百のものに成にけり　阿量
しくしや内義をこの世欲仙　一蕙
変化を業て何百の仙ひ千　朱陵
以このすくすくすくす来る何百　養源
兎角して何百をよくよく来にけり　六輿
しくしや肩もこれぬ小見を安　与静
蕗こそ何百のものをこれけり　岩木子
来ぬ人を茶坊にたる何百わ　卜幾
猩々の人とこれて酒何百　丶
上法の蕗を深くくこれわ　一塊

松よりも何百やすくて漁笛　李天
るこれくしてバ考こり丘の京　甲斐　百二
茶麦の花に成る何百わ　安義　白井
蓼なての寵業なる何百わ　伊勢　丹嶺
何百より大ぶくに来ぬ松の百　近江　選古
るくしら来れぬこれ千何百　吳見
何百なくくくこれくこれぬ　平城
老ぶくくハ小なるくこれ何百こり　桂山
ぬくこりのハ何百の花　作元
老くくや年に成くく来る指の京　秀教
何百これくる酒なる蓋の時　二蘭

夕竹白

一つ葉をたつさへて寝竹白
窓角に簾のあさむく竹白
琴笛を荷れゆくゝゝ夕竹白
夕されば竹白うゝゝ掾の上
竹白素て又出る月り夕和
夕暮れ別しと月の竹白和
手枕をして初暮麦ふる夕竹白
たけ白すゝめ夕の掾末山
夜さいさゝ宗や竹白の枕うゝ
竹白もてゆゝや夕の竹白
夕暮れ来ふりて寝竹白

肯菊　女志宇
斗園　楊月
白桃　遠古
有筆　夕常
宗来　袁時
沙羅
董半

夜竹白

たつ乱の竹をゆすりて寝和
竹白ゝ千嵐のゝゝ琴の上
京竹白人の竹白を泣和
竹人の来ぬ竹そ小夜竹白
小夜竹白屋の竹ふり夕
屋ゝりてゝゝの竹白関夜和
屋の夜をあけて寝竹白和
ゝゝよりゝゝゝゝゝ竹白れ
ゝ竹白ゝゝゝ小枕竹
夜竹白や枕の下のゝゝす
独みや古人のゝの小夜竹白

美原　多賀
美民　美村
美二　蓼古
平入　保吉
恒丸　全
士鈴

長翠
玉屑
月化
一茶
護法
松藻
茶也
流水
春魯
祇村

陰炎
出雲
乙化
乱流
加達
撫子
松虎
長高
追吉
飛梁
白雄
姫九
蕉白
松藻

川青竹
松風竹
長丈
初雪

川青の竹
河青の竹
黄ばむ青の松
松風のついてふる竹
松風ふるる竹
あるかも有ふしもの
初雪や去来の新のつゝ掛
初雪や去来ばかりの芋掛
初雪や初雪の芋

初雪

初雪や田中の杭のうなだれて　柳花
初雪の底をたたくけやけのね　芳村
初雪や流のくるめる岩の上　渓之
初雪や詩をしられ非等　保吉
初雪の山一万里迄見わ　盛吉
初雪や乳房を空に寄合せ　蕪仙
初雪や流て乱る杭ゝつゝ　半入
初雪のをこりまやの空　自樂
初雪やつゆのまやの二方　無流
初雪や庵のまゝけハ根白子　恒丸
初雪や人の寄る按木笠　士郎

○十五

初雪や子の子の時立る　榜生
初雪や庭に出たる梅の花　宋英
初雪に足たゝぬ蓑の我ゝ　芳義
初雪のつりやハする垣根子　一子
押掘り初雪見て来ちゝさいる　冥々
初雪や松ハ協の人ゝ花　岳猪
初雪のまゝや木これハ咲きゝし　道光
初雪や厨の空をいそ人ゝ　素卿
初雪のこゝ有りたゝ人の上　少汝
初雪や古ゝこゝ雲の元　一茶
初雪や人の庭をハとけれき　雪堂

初氷

初霜やゆふ庵こゝろの山ふかみ　秋丈
初冬や瓶もまだきえて出る　一蕙
初冬やうすきのみつかりけり　白考
初冬や猪のねる松の枝　流詢
初冬やこぼれて猿ぞ立直し　車両
初冬や気も老も山の手の　小花
小春ほの袖にも寒き千けさの雲　五光
初冬やとしの寒さ嬉し　可年
暁は落葉来るかり初ごろ　蕉明
初水のまさしく鳴ぬきけり　岳豁
老松の落葉の嶺に初ごろ　老林　孫家

落葉

まつ火に落葉まじりて飛かな（イ二あり）　暁台
木の葉ちりて榎の下に落葉かな　仝
旅人の足音さむし落葉かな　巻歩
吹ちれば落葉にとまる戸口かな　白梅
川人の寝屋に風の落葉かな　傑吉
小庭へも夜に音する落葉かな　斗入
落葉する頃に老行山路かな　鉄書
夢ふかくふきあつまる落葉かな　仝
落葉して渋きの道なき小里かな　春亜
落葉して又婦人の着しめかな　湛道
落葉たく新の松風きこゆ手　士朗

仙人掌撥拉の上
春夏人の長き夜や　　蕉
蓑を抱て吹すれる夜や　　荷屋
見むすぶ夢の覚さうも夜や　　巣兆
夏の月の覚さうも夜や　　宋吳
冬の月の覚さうも夜や　　仝
冬の月の覚さうも夜や　　可笑堂
俗くて人の業俳る夜や　　居然
紙人に成すう夜や　　大阜
吹ぬけ夜る夜んありけり　　支郷
義法も夜に入わ孔と　　自化
　　道夜

撥拉も村夜や　　仝
雪の心なる夜や　　一茶
羽織の夜やも　　万和
とまも湖のやうて夜や　　長高
夜の杉しなつ夜や　　雁人
ひつて夜のうつく夜や　　寄閑
去つて夜をおりるの夜　　立志
あるく孔夢孔ぬ夜や　　義源
湖さと俗にする夜や　　巣鳴
夜ふして夜ふける夜　　知白
夜ふして夜ふけるも夜や　　楳老

凡て花の葉に木の葉かゝ
ゝるを花の末とハ成れり
大ぶハ花さく木より葉の出
来の遅きもの葉をハ
葉先ハ花ハ人も絶て来
ぬるとをの葉をハ
下戸ハ花ハ成ける丈葉を
ちらすと来る也
烟草ハ抑人もの葉をハ
隣る来もるて既書の葉をハ
莫迦くつのあらぬ葉を

紙古代唐文紙
能書
来流
一葉
名取
狩丸
下戸
来花
玉椿
士鈍
道来
葉古

抑葉を
銀杏葉を
莫迦を

木葉

ちるとてもちりてもちるもの
とすし桐のもやはり葉を
ちる木をもちるもの夏也
夜のちる木葉ハ月をさくりあり
ちりさハ吹ぬ日にある木葉ハ
この仕方のあるを春の枝ハ
木葉さく寵とされハ大もとし
牛乳の孫乳にめる木葉ハ
木の葉大のへらゝる月ハ
ちつりしやうの入山の木葉も
葉ぬくの有る流る木葉ハ

祥禾
一葉
撰葉
月桂
二柳
五味
弦月
士鈍
葉花
長葉
葉花

風

ちる木をいとへの下の秋ぞうき　成美
木をちれかけちるもこゝろぼそく　道光
ほろ〳〵と落てひさしぞこの庄や　蓼太
かゞるのさてもぬしやちる木を　一茶
木をうゑたのそや山の木てへ　右孝
へゝまさへとしやすゝ木をか　出羽　古翠
あゝゝさてこのくのふる野のうち　笠甫
ひりあけハかうつゝ茂るなは　下総女　そのゝ
撫歌のさそいそくらん茂木を　女　志げ
こゝらゝやはた世ゝる京ゝ形　蓼太
風やたゝゝうゝ席　言

風やあれに世ゝる帆かけ舟　蓼太
木ゝゝゝやはもてゝ雲も吹ちゝ　撫月
風に芒ゝ花ゝる書木か　晩象
風にむりれるゝたりせゝれ　公
風に笠一芒もはゝゝる　白梅
こゝゝゝやいつゝゝれ柴車　公
風あゝゝゝ松の書さか　世ゝる　擬風
風や弱木ゝゝゝ京人　保吉
風やこれゝゝ沖の石　尾張　塚尾
風のけさそ地に咲花　岱書
風や眺のゝゝとゝゝし　九　続九

風にうごかぬ窓かな　殘石
風にすゝり泣の小坂かな　春亜
風やともむすばれぬ手入れ　仝
風に入りつゝるゝ手入れ　姫花
風に入り合もうぶ田つゝかな　士朝
風やけさもふるたる池の鴨　仝
ちらくとも風に落る葉の上　仝
風や海一ちいにある月　松兄
牛もうるも風そのうらゝかな　子義
風にゆくや山里あるそうり　碧六
風や菜の葉につゝむ鴨の卵

風にうごかぬ窓かな　長翠
風にうゝるさゝゆるる月　六亀
風にやむ付月のまゝかな　伊勢曲郎
風やにもまれにうるの葉　紫池
風の止陰ゆるゝ松の風　左琴
風に人もまれぬ木に残るの花　成美
風や沖の路のまゝうゝ　上言
風やうるもうゝて人まゝ　百鈴屋
風や山へ家ゆゝ山の角　柄英
風を余仏にうゝたる菜畑かな　子共
風やおのゝまゝて塚の墓うゝ　月化

風れ[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]
風の[illegible]ちぐ[illegible]
風や天の[illegible]の[illegible]の松
風や[illegible]も[illegible]
風れ[illegible]を[illegible]
[illegible]
風や[illegible]れ[illegible]
[illegible]
風や[illegible]の[illegible]
[illegible]
風や[illegible]に[illegible]
風れ[illegible]

東郷
無[illegible]
[illegible]老
月風
[illegible]
一[illegible]
[illegible]松
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の風を[illegible]
風の吹[illegible]や蓬の宮
風の[illegible]も[illegible]の上
風に[illegible]や[illegible]の松
枝[illegible]風吹て[illegible]
風や[illegible]れる[illegible]山[illegible]
風や月の[illegible]の松の[illegible]
風れ[illegible]山の[illegible]
風に[illegible]
[illegible]や[illegible]
風や[illegible]

尾張
[illegible]
[illegible]
武蔵
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風や鮒の魚のうへ　枯枝
風に洗れあげたる雲　嵐雪

冬木立
冬木立月骨格に入るや
人うゑ一本二本や冬木立
源の掬を空に伸しや冬木立
乾風や花もれよる冬木立
江の月にさゝる影うし冬木立
生れしもうの小廷そ冬木立
うゐ〳〵しき池へとうり冬木立

蕪白

女　枯

考明や冬のもしたる冬木立
撫られたる手のぬくもり冬木立
立ぬ人もつれるし冬木立
冬もも時い木ハうし冬木立
冬木立樣々な拍板の腥ず
若川の流あるうし冬木立
冬枯や蛩の鳴れに言の良
冬枯て高い高も高き月
冬枯や板戸にうゝ月
冬枯やつゝ生るうしなる山の秋
冬枯て鶏の眠さちく芒や

枯木
唐人

漫て
枯は　几仙
龔兄
子芝
春亜
士彩
合
乙岡
樗屯

冬枯の京に芝みや葉の畑　今
冬枯の関に押やるなわ　蕉之
冬枯や海も路も畑の中　一茶
冬枯や山のかなたの茅屋　道彦
冬枯や白戸に残るもの淋しき　涼人
冬枯や外の青田の黒ハろし　漫々
冬枯や水に流るる茶の葉　秋夫
小冬の冬枯もする和山わ　龍は
冬枯やすさまじかりの松に茂　宗は
冬枯や茅ても門のを結り　牛来
冬枯て寒も芝もうろうろ　一柳
　　士郎

霜枯

霜枯や芝ハ市に茅屋　梅園
霜枯や十七義も捨てある小屋　道彦
霜枯を尼のめしたる業汁わ　伊豆
枯〳〵て月を柳のうち有へわ　玄宋
枯れて雲とたれをのうち　蕉古
霜を踏しハ絵うれ　柳　晩亭
ふるゆゆて横も柳　枯柳　白雄
枯〳〵やこの咲の枯　柳　源俳
霜枯の気ハ漁村の柳枯にうち　盛吉
旅人ハ霜きいまつ　枯柳　士郎
霜枯多にうつれハうつり　柳屋
　　月庵

枯柳

枯柳踏落の音ぞなれけり　三津人

枯柳寄る人もきてうちかねし　双渕

枯りむすび結びて枯る柳かな　京 斗久成

互ひにてられも枯るるかれりしが　道麿

ちりちりて葉を結める柳かな　右種

枯芦

子をなき川淵の芦枯にけり　稜光

枯る岸も枯ても身の芦かな　英二

枯ささや月にて結ふし芦　照丸

人ありて又いなし枯芦　一学

旅客も月見にかへれ十しま　麦浦

枯にたる芦のうへや天の川　梅関

枯尾花

くてほくかの夕る芦かれ　松宿

鉤舟の名もかさる十しまに　挽己

夜の風芦ゑくてようりし　士明

流牧牛の十寸穂の芦枯にけり　陸奥 氏旋

朱刈の髭にさはるや枯尾花　若才

子を負の仮寝れたり枯尾花　今

ゆりかれ枯はよくかめぬ枯尾花　暁麦

斧火の燈の中に枯尾花　盛麦

漣やあれ中まで枯尾花　素阿

霜おきて枕のさびしき枯尾花

枯尾花波のうちられけり　斗入

杭毛むらさきさしてうすくたなびくやうにて雲にうつり
杭毛むらさきにたゝく火の去つゝ
杭毛むらさき氣腦の雨ゝ
杭毛むらさきにてんに飛るうすゝ
うゝくとゆきさきん杭毛ふ
たつたゝ雲まに杭毛むらさき
おのゝ山ゝ杭毛ふ
さまゝの伊たちゝ杭毛むら
うつうつうつ人もかうれ杭毛ふ
ゆるをゝ雲ゝ杭毛むら
毛むら杭てゝられて人のれつゝ

松尤
琪仁
士的
眞く
晃首
岳絡
月瓦
道老
鞠月

松山のゝたゝさしてゝ杭毛ふ
三日月にあゝゝ杭毛むら
一野に杭毛の雲ふ毛ふれ
海山の月に杭たつ毛むら
やゝゝやゝ月に立ゝ杭毛む
村白のゝる暗にてゝく杭毛む
とゝ更に月夜ゝゝ杭毛む
人ゝのゝれゝゝし杭毛ふ
杭毛むら吹上月と速立て
旅ゝゝと眠にてゝた杭毛ふ
ゝれもゝてふれゝゝゝ杭毛む

秀閑
公
蕉白
卓池
映雲
踊子
兼也
吳老
孤山
女演藻
遠松

冬芦
枯芦

此芦もよそにしてさし枯尾花　玉光
荻よりも尾花ハやすし枯すゝき　蓑汐文
ゆくあやある月夜すけする枯尾花　玉之
藤つかすむ花や手れたる枯尾花　伊勢 六杉
これすてゝ死すしそう花枯尾花　在府 素共
遠過る海も広さや枯すゝき　播广 因實
松にそふて死ぬれも老や冬芦　周夏
枯芦の日にくまれて流れたり　道差
去年にに川辺の芦の枯葉かな　暁裘
いちそやゝ枯てやまれる芦の上　月庵
枯芦や池手りに来る　女 恒丸

鷺鴨のすけハ枯たつ芦辺かな　古鶴
ちりとりの出る芦の枯葉かな　仝
枯芦のこれ程までに出れたり　木佬
引てゆく汐のあとの芦の枯葉かな　桂也
枯あしに広がる鳥の翅かれ　祥禾
枯あしの糸長に見る月夜かな　乙二
枯あしの色に出たり夕月夜　岳輅
枯あしや雪のちらつく風の行　道差
あしに真すこし人目も枯にたり　仝
枯あしやあるのねにさ見えの行　護筍
枯あしや鳥のあすハ白髪まで　康也

杭あしの末さへ見ゆりゆの冬の月　惟平
杭あしや月にさそれこゝ山の冬し　桂凡
杭あしや年ふる程の風の音　柳延
吹やむやあしは杭ある江の月夜　要　羽音人
杭芦や寒ふる出る沢の泉　摂　文卿

杭　霰
蜘折手けつるや霰の杭ある声　琢古

杭　萩
杭くや流より出る萩の声　暁衰
萩の花の池にはふ蛙杭に見り　卓池

杭　蓮
杭蓮や葉つゆ露の古金　斑象
まちすみ花見そり又杭にある　道芳

杭鶺鴒
鶺鴒のいたく声し杭ある時　江戸　米翁

杭　菊
菓杭てすゝくとり花菊ある之　布斎
杭ありや菊押よする米の垣　楞路
作らて菓がら先へ杭にゆり　一菜

杭　萵
萵杭てそれぞの勝の時ふ　菜兆
杭萵や抑そと閉はゆるしら　道芳

杭　蔓
生の花もあるれ杭　蔓　育鑰

杭　萵
杭萵や大夜雲て中来去　鶯笠

杭　蕨
引池にかりゆしや杭いくら　都雀

杭　慈
羽さよふて鳥入ぬ杭花　丈左
杭しのふんゆるゝ寒さめ草　菱稚

杭　夜
夜さへ杭て出ぬる戸ふしむ　暁衰

ゆふ姿かなの眠に来て雲の枕哉　蕣輝
水さしゆくや人の気まて枕屏　馬項
屏枕て忘られて人のうつりけり　来九

枕
枕衾

枕ゐてのふしの身に入日哉　一嘯
子られや鐵のきりある浜底　白梅
年のかし九音にうつる子の白　米六
子枕や十の指すも出しつ　寛松
音のある椅子しめて子枕ね　朴土
子枕や床とりもりて鳴鳥　英又
枕底の子見てみれハ音の声　大和　蓼康

冬菊

聞ハ人ものうてや勝る冬の菊　業兆

冬子
枕水

冬の子寝れ始末も見ぬなこ　方丈
てらつと石にねめてる枕水かな　蕪村
山を越人にうれて枕水かな　仝
音をたてぬ鳥のけみ枕水かな　江戸　鵜風
めつらしく又音きく枕水かな　晩宜
犬蕉のふつて赤い枕水かな　仝
捨られ活鍵のそく枕水かな　白梅
小よりしや枕水の末を人の川　仝
牛の尾のかいうこらぬ枕水かな　蕉左
人通りかされの水の枕水かな　仝
目もさめより冬るれのかれ　上毛　百竹

その中を渦に飛こむ杭の下
を離る杭一杭の流れ　保吉
杭〳〵やみ辺に出もう〳〵屋の太　江戸　凡洗
むつまし〳〵花や杭の下つ流　士訓
り名の酒屋〳〵杭の水　会
屋松う志歌河ゆる杭の下　樗堂
ゆい杭て京歌の見のうゑ　巣兆
一里ゆ〳〵白に遠う杭水原　徹夫
淋し〳〵杭水に〳〵沈淋〳〵　牛山
つゆ〳〵と帆柏こゑる杭水　義里
酒のうにゆ〳〵や杭の一里水　祥永
　　蓍三

杭〳〵て水川ふるつに引れうり　序文
餅の月にあゆこうり杭水　一学
りうやむ氣に杭の入口　宴〳〵
夕嵐しうえ杭のふるれる　天笑
傘捨て元月尺てをり杭水　月化
名も考ゆ小子花咲杭水　遠光
牛吼て杭の果ハうりう　蜆前
吟に出てみるや杭の村花　雪笠
葦さ〳〵はうりに物一杭の　雲竜
麦餅の麦ハにうりゆ杭水原　一茶
白をうたむや杭の麦りを　平角

柿花

にほふらひの暮かゝる柿の花　寒松

日のさしに嫁入の通る柿の花　二虎人

門松も子日も知し柿の花　路光

日程もよしや柿花を見る亭り　湖中

赤い実のこゝろれる柿の花　大呂

親子して達貴つり柿の花　文角

黒牛の泥農る柿の花　升司

侍もるさきゝるゝれの柿の花　迎善

茂士の飯にぬれる柿の花　沐山

松枝は柿の里の夕日かな　紀伊 木賓

宮ひらきの跡なき門に足二本　乙二

山茶花

そさらの中違ふ合すそ木跡哉　方榮

きんなや世の名にあらそふ字　下総 爾凌

つれてや山茶花ひらり宮ほり　吐月

山茶花も二本は植ゆ宗祇かな　道彦

山茶花や有の葉も干ぬ日ざし　右乾

山茶花はちるより先に庭掃す　葉也

山茶花の蔭に米の女誤なり　書良

山茶花のちれゝましやゝちれは　古三

山茶花や代々花井の濡てある　甲斐 旅彦

山茶花に木ちてそ気たるか　森一

白の月のさゝれは養そろり之　但馬 月波

帰花

心なしの大光もさうに咲にけり　紫水

春花の美人見て咲や梅の水　白子代

散れ〳〵と咲て見せけり梅の花　江戸　連枝

庵ハさそてやうし見てけり梅の水　竟古

名ゆしれぬ木ハ屋敷の梅の水　國文

梅のいさ〳〵老木の春の花　白梅

梅の花咲よりもさく咲にけり　人

をさまれば春ふる梅の花　江戸　梅人

梅の花咲や二日のあとの水　姫丸

うら陰のうぶふりはおもてもうてり花　雲海

梅さく花一緒に咲しこれ　吉川

その日の花嫁ぜんし　帰花

尼庵に梅の咲ぬ水　鶴代

梅の咲ぬ水ハ咲ぬ　江戸　城英

ちる梅ハ咲ぬ水　年仏

梅の木ハ咲ぬ水　義星

大ぶの木ハ咲ぬ水　麦葉

軒麦の花ハ咲ぬ水　平角

けさ春の花ハ咲ぬ水　尾金

春ぶの花ハ咲ぬ水　笠老

おもしろ人にさそれつ梅の水　斎人

ふり花あるら梅に咲ぬる　竟松

蹴鞠　江戸　城英

年仏

義星

麦葉

平角

尾金

笠老

斎人

竟松

斎岡

業平も老にたるおとりかの
梅の人あるにたれく折りて
梅をさそふ人ハたれとかりし
見出されて紀ゝるとしや梅の
ゝ手れさく花の葉おもあれど河
うる河橋をのぶれて梅花
心人ハまゝ者のうへし梅花
義士のわるとりかの
梅の月夜にあなるふしを
枇杷の色もすくれたるうり
う芳もうくそやれたの花

警蹄
方明
枝長
一惠
吳老
之紀
鉞蹄
吾友
素孝
義方
貞佐

枇杷花

八月花

れたる花枝のうへいつれ年
濃うれハ咲くといそれたり
義蔭も日無うれすれそれ花
ちくたの力もたくすれたの恋
森てあてもれ乳れくまやれの
枝れてのくたりれ花
眼のくそ田をおそれたの花
そのいそぬ人まれ乳れ恋
候球の古ゝ—の人れ花
うそくそ花のやそやれの色
雷の罪の咲るやふやはじ

白雄
一子
万和
鐵蹄
鶴々
一柳
孔樂
統治
温古
半華女
文子
古節
武秀
百里

白八重の唐糸似るものなし
花咲てふ綱はるる千世てかな　南陽
貴そうなるはあるりうの牡丹　唐人
寒かく葉のあくこやの牡丹　歳賀
ゆりくけん猪やさくもてあそん　蕉古
あへてうくちり泉ぬ　大江女子代
牡丹　榜色
牡丹よりとく咲ちり交ぬる　京
出羽さやはうと咲しの牡丹　素坡
美さのて彩る素七の牡丹　子
涙金もつめい次ちの牡丹　祥禾
牡丹　月化
牡丹　唐人

牡丹
牡丹の匂ふ蝶の花ゝ　巨麦
牡丹人ちのこれ咲ての比　樹慶
葉の花やうも黄ゆも光朱ぬ　蓮舟
葉ぬ花にたくこれ手の乳舞楽　白梓
ゆくくと葉の木の花の咲ぬり　盛吉
葉の花にゆのあるこて素七　士朔
葉ぬのあ夜ハ方ぬの匂ぬ　合
葉ぬ花にたる孫ゐる乳流ゐる　張六
葉ぬ乳ゆとうくて花の流ぬり　榜巷
葉ぬ乳ハ美人のゆらぬ匂ぬ　大阜
花さくさとうえにおくや古葉木　道尤

茶花

麥蒔

麥蒔て小ゐの羽ねは
茅の帝の下に麥を蒔つ小ゐは
雪の剣のごとく霜や麥末咲
麥蒔てつ居とゐる村雨は
麥蒔て足と小山とうれそう
麥蒔や茅の根の歌うつ
因に麥まき國へゆく吟哥
吾茅に麥まき居わ

伊勢

右春
帝言
春亜
城美
乙二
卓池
美山
白桃

尺丈
云雄
食茅

冬

埃埃
冬 埃埃は出て熊抑れ霜をなのうす
冬 埃 埃の縄涙て死なる殺もし

冬埃埃

冬 古

細代も

竹に入りてそのもの縄
いれと茅うあるもそのそん
う埃の朋にいれ霜のかりん
死を知て彩うるやそのもし
細代京の人俗と平氏
世うられてやあ乃も
きさうに人ハ日ふんあ乃も
あ乃も世ハ山の六番死
世の中のるにあ人死あ乃も
あるに別てつやあ乃ら
あ乃ら乃も抑のあ乃

但馬

麦松
麦迪
菊弄
茅郷
白桃
麦古
大江丸
士幼
完来
五郎宝
一子

水魚　川よりのぼる松の風　芭蕉

紫淫　うつろひぬ春の日の　曲水

罪やまひのそく魚の新　乙二

うつろひし川や氣よりあれ　二葉人

紫淫や万邪ぬたるぬ春の月　蓼太

うつろひの月てたつや知るく　加賀

教あるまきれしか伸のうつへれ　鶴ち

作　筍　よとれたれ月あり雲の月　凡律

夜興　蜑　よとれたれ狭伸ふれ沈　蓼太

よとれたれや折くるる機の雪　伝不二

狐火を流の紫や夜興引　蓼里

柳花
苑しお
合
廿子代
蓑を
號を
合
白旋
る碓
れ董
保吉

伐き
ぬ松
合
踏石
抱れ
合
踏道
踏石
土砂
合
搗米

冬

出翠
芝蓋
道隆
朱六
翁源
業孔
業兆
冬
成英
冬

冬

著三
一芳
平角
乙二
道光
冬
月孔
冬
冬

夜に入りて雨ふり
小雨ふる
焼ハ海ゆくやいかゞ
ものよりはやくふるとおもへば
曙や雨に飛ぶてうくちり
起うらいそうつて鳴ちり
おもふるたつやあれハ言力の穴
京洛の流もて来て鳴ふる
ふる八雲ふ物も変ちり鳴鄙
鳴るやうものの廣る海ふる
意ふも抜ふ鳴ふ小夜ふる

養机
瓜坊
蜆蛤
尺艾
支藥
月代
雪梯
梯閣
雪笠
曰人
斉人

たいさう風海を考へつゝ鄙ハ
夜のうしゝ風にそゝれ鳴る
江の抜をふ作てゆくふる
月旅にふる
夜風くのふる夜の白
業力に世を乃きて孤ふる
ふ郭ハ笠のとる海ふる
雨の畔に一本ぞふる
松風を鳴ふに起れふる
孤ふるあもしそうも尺ふ
浪烟ハ作て鳴ふる

定松
美ふ
蕉白
渡物
少女
幽晴
快象
漫〻
少志ふ
一華
支院

立隙を吹入れて明るき
月に夫人老い交りし海ふる
吹つれて明るき
むら雨のしたりし白のちとり
声の松を辛て明るき小夜ふる
人もあるをそうあり小夜ふる
氣あり也袋に入れる不明るき
ふるまふ又うとり山の白
兼方ハ演のふるふも来る
河上の大根を流れふるわ
海光のゆく所ふるく

能九 東鑑 高
能九 其城 小夜
能九 頃高
方文
能九 都
伊勢 洪石
尾張 宝光

○卅九

しうとうに芙蓉のちとり成りふる
山の雪を摩天のふるのあり
やたふるの雪のあるあり
ふつ明てふるあるあり
ふるるふるふるあるあり
松月夜にしうとうれふるわ
桃立の脚に八度ふる之松ふる
ふるふしたいたふる之流の上
松ふるうとうし
俺さを桃をふるふるわ
傾城の名もふるとけるやふる

能九 可十
磐姫
赤橋 石手
不貢
代房 月栄
伊豆 栄光
伊豆 桃園
玉 桂有
かたち
茜麻
古墨

鴨

そらう大の松に尺遠てゐるよう　憲実　古乙

亘花さたく大のそうやゐるよう　仙西

ありうるや秋ら葉あら肌ふるゐ　古節

ふるうと来たくるゐ浮寄る松　会

寄立て月に流むえにつり　周文

蛙いに光寄の古にのいつり　樗堂

うたうれうく義うし芋に白　乙二

俗芋やたいは拉ゐいつり　掛戸起城

氣髮に鴨の色ふうりう　晩亀

鴨寄秋まの水いつまて　蕪村

鴨うるや浮洲しそたう撫　白雄

鴨見るこの中分の月わさし　菊明

鴨の寄秋ハ一色に更にう　樗堂

月の出やのに入りても鴨の色　光直

ちうくいまうしても鴨の皮　蒙求

鴨うるや秋の木腐ハにてあれ　秋夜

寄の人の鴨にたくうくメ　会

三人て一本傘や鴨の寄　祥東

鴨うるや烟寄たうる志あら　可敬堂

メ風や浮寄を立に花鴨　逸光

武元秋うる元をうる秋鴨の寄　乙二

月の秋をうるうくすれ鴨の寄

きよ井のこほれた村て小鴨の声　仝
引しまはこほれてあれ池の鴨　寄閑
狗もひとく鴨より前のしらむ　寛松
鳴や松のうちから鴨の声　卓池
鴨の黄を小舟にうるや池の鴨　漫々
夢く小鴨によこてなまの声　梅岡
鴨羽白黄ハ光の声や　阿曇
鴨なくや松と池の方に風て　雑吼
子をおきて羽をかや村のまの鴨　流陽
よ寺門大閑の雨に小鴨の声　城琰
鴨なきし山の背へをとる　憎平

明残る池ハちれさかす鴨の声　岐東
ありくさよのかり鴨の浮ん　杉磨
枯芦を喰なる鴨の日暮かな　梅卿
鴨なくやありふあさしぐ岸の雲　一水
ある時ハふかりすむれ池の鴨　倉吴　文翠
素る浜ちる風聞より来る鴨　ゝ　吴桐花
鴨なくも来てたけ村手池の月　ゝ　似山
山風をそこし小鴨の声　古節
雲にわれもこちたなく小鴨かな　皖玄
満汐によく葉の芽より来る小鴨かな　花縣
鴨の中よけてあちこち小鴨かな　樗史

小鴨

小野の山ちかき所にすみ侍りける頃

道素

白雲の立ちかくす小野の山の
月をうらめしくなりぬるかな

白塘

流れの水の小野の
月をうらめしてたゆたふ小野の
池水にうつる月の上
に雲の立ちかくすを見つ

子崖

男
白雲

橋光

月

雲の立ちかくすを見つ

信茂

小野の山の月

大江元

雲の立ちかくすを見つ

橋光

月

尺文

雲

武陵

女人

信岐

藤原

雲の立ちかくすを見つ

藤原

雲の立ちかくすを見つ

藤原

雲の立ちかくすを見つ

鶏鶉
水鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の紙[illegible]二月
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

作者 麻古
作者 遷喬
作者 嶺雪
作者 元英
作者 喜山
作者 玄旭
作者 [illegible]
作者 午桂
作者 士鈴
作者 [illegible]
作者 寒々
作者 卓池

冬

鈴彩

木瓜や[illegible]木瓜や[illegible]
[illegible]の[illegible]や相に来て[illegible]
朱垣にゆれ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]先に[illegible]
[illegible]の[illegible]
小刀口に咬てゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]

乗紀
月化
柳五
園文
百枝
[illegible]
月桂
[illegible]
然号
[illegible]
[illegible]

松井にかりそめもいれすとそさい
所にむさて迎ふり梅のこそさい
路遠もさそりうたそこそさい
木の巨の時と来るかみそさい
大ぜれるりに公合りみそさい
千鶴ちとりてもいら寄る
みそさいこけるされてみるりぬ
ひれいを考ハそこそさい
こそさい火傷兄よつに来し
来を考れい拝に来るこそに
松ぐさんにされて来るこそさい

成吳
丈吉
連濤
道堯
月化
一葉
雪笠
木海
春首
斎人
梅僕

ろりハこそ来るるるこ来こそさい
ぬれてもるつに来れこそさい
丈ろより矣を矣ろこそこそさい
こそさいハ恋や一尺よおす
鶴ぐの至売ろうる見こそさい
小物をのんそむこやこそさい
あら後や垣あれいこそこそさい
二度ぬれいわれて来るこそさい
ぬつぐや乱のの桜ろこのこそさい
ちさんのハそのの一ぐるこそさい
ロをこぐるのるここそさい

万和
枝長
茶堯
鶴老
倉境
女きく
宇扇月
次郎兵衛
夕意
古民
晴二
石蕉

拙さあるものもうあるやうにさしい　前句　仙文
義経ゆかりの琴を弾くそこそこさい　上句　青人
こそこさいはいとけなしき　付句　文楽
優ある美を手にする青わ　関文
琴や美を手にされまして新たなる人　一美
さし明や乗れる舟の奥　発句の　雄川
さうだやあるに拙さよりのあるる　脇　可南

俳諧貴白髭叢巻中

椿五節輯

雪　月　雪月花つれづれ田つくり　青竹
雪月花やあれる人にさん　松長
しもかれて姫たる天の河　汝南
雪りの記するにもろうろう　子容
しもかれにうれいに乱れ山風や　清路
巻　恋　本子の拙もうそうてうそのう　南路
新たつも地長を誘ふ夜恋や　英古
琴のうしろ月ひ月ひ　青竹
柳ひるんのうしろ　九竜
月　秋英

芝九郎兄世

[illegible]の[illegible]合にて[illegible]
孫若も孫にて[illegible]
[illegible]にて一日[illegible]
[illegible]にて[illegible]の私の[illegible]
わりくに[illegible]
背伸する孫にて[illegible]の私は
月にゆくハ[illegible]の子[illegible]
山[illegible]子の[illegible]
[illegible]のしり[illegible]
臼[illegible]に[illegible]の月[illegible]
[illegible]に[illegible]世の[illegible]

道元
本
[illegible]
[illegible]松
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人に[illegible]
[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の人
[illegible]の[illegible]の人に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鶴　茶

鶴茶や子のそ屋とる死んし

市火焼

市火焼や大もゆりくそろ良

枯れたるやうなる汁の良

吹革茶

吹革茶の敏の紙治やも茶わ

厨棚の左刀うつ吹革茶や

手ちりや吹革の茶一孫定

子　茶

子茶や弟代の前の飯盛

子茶に子ごれ掛乞松の指

子焼仏

牧仏や焼仏茶の吹仏り

弟　茶

ゆりとりを巻ら打ち仏弟茶わ

茶弟茶や抜をたら竹の茶

子巻　子巻わ

一子　一茶

一茶　陽写

陽写　和山

和山　自乗

自乗　道茶

道茶　茶仏若

茶仏若　仏茶

仏茶　二抑

二抑　茶茶

茶茶　茶茶

茶茶　茶茶

茶茶

花に来た雲あり浜叩
木の芽の坊さのちや浜叩　合
雪の又雪人有とも有浜叩　合
奴猫のおれ来れ立ちち叩　蕎吉
ちちち叩とハ花ちの思路や　焼麦
見事の杉の老ちちち叩　合
川添や木屋はたちち浜叩　樗京
雨さしれわ来いをちち叩　白燒
浜叩老の力のあるけ　合
仁ちぶ麦女のいをちち叩　吉蕎
浜番の子つれて出ちり来る恵　保吉
知りよう叩ちる浜たち　大江丸

浜叩　合
浜叩樹あるいを大旦那　
浜叩画にちつ百をちちち　
ちちちちち百姓やれ浜叩　
雪北ちを就十れた浜叩　
南無阿月杉南無阿何百浜叩　
来ちる来麦光の支た浜叩　
浜叩ちを祖師のつ人浜叩　
ちてハちて叩ちと芋れ浜叩　
麦ぬ方のつ月も入を浜叩　
浜叩杉のれ立ちり八月杉ち

[illegible]

一字　養机

寄閑　道元

合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

泉州堺の浦松原うらうら
二度三度見ゆる浦々泉州
うらうらの見ゆる浦々泉州
摂国を夜毎に出て泉州
泉州にて来ぬ来ぬうらう
泉州にて見れば遠れうら

乱髪 平芝 古歌 東有 懐紙 巨心 石見 露見 冨貴 道産

大師詠
同仏事

天保 童平 一方 周之 晃亮

雲

雲とやみるの色も地につる
打ち分けとよりもうーや雲の
人を見て又帰りうら雲の
作りて捧の雲の消くうれ
雲雲の消りり形の様うれ
雲に雲打ーー有のあうーわ
雲雲や風に吹れたる法の来
雲雲に巣塔の花の実りわ
木法もハ花雲打ーー雲
大名もきい風情や松の雲
走ゐをりうーや雲の所

捧見 白捧 宗潤 保吉 公 感吉 半入 昭見 巣兆 秋英 著之

後学のうれしもたのくて雲の庵
山里や冬を横むし雲の人
山ゑたるくも雲の枝
雲こそ雲雲にもてー柳
雲の雲に海ろくこ雲山田
雲の雲ゑくろ雲雲水
水もろぶ義の垣くのくれ雲
むつちーぶ鶴こそ雲の雲
大沢や来てもしめる雲の
大雲とりてあるやみの雲
まれるもいそくれ雲の古巣

凡
禅乗
平角
冥く
陳彩
道麦
合
蔡孔
万和
素記
漢西

集ろ庵と大にもろ雲の雲難や
古雲八ゆれ雲の雲やれき
雲のもろ木にあるくれ
雲の巣蔵の画より気や
略宵一人くろ雲の雲
ろ雲を見ろ千のくの雲
松の雲や一雲ろ雲の山
ろれ雲も人月ゆれ巣の雲
雲雲にろ雲雲の夜の柳
河老雲のろりこ子や一の雲
雲吟一や二見三見雲の雲

卓代
菊也
柳万
湖中
小老人
鏡吸
布席
壺雲
青雲
史子
河巣

雲雀

雲雀伊豆　美濃尼

雲雀なく猫に捨てこそ捨てなれ
雲の中越に猫なく
雲の中なる打ちれんや流の寄
雲に打りて雨さらさらと花の散や
晃歯柔し蕨漬も雲の上
雲雀やよく舞上り雨の
雲に住く松五も雲の雨降や
旅人の捨し笠より鳴の雲
雲と山や月も雲の下
雲雀や第に上る振袖
雲雀や神に誘ふ雲く人の声

松尾芭蕉
蕉右
白雄
大江丸
松元
秋英
一茶
對山
右雄

雲雀

雲雀や求食てよこれ踏の後
雲雀や麻の乱れ水山の
生ろう急さらさらや雲の松
鶏鳴に雲起るや雲の上
雲やくと柳の雲の後
雲消て光に成ける時
雲の秋やなの子のうち板の下
板に小白の乗る雲
ひばくと笠に乗て雲
雲の秋の嵐来て乱れ
うちり出に二十の巻も雲

井手
ちる玉英
白年
慶戸巴丈
鳴雲
合
蘭牧
春亜
雨丸
樓屯
成英

雪の歩や天の河まで雪ぬ代ゝ
了ゝもしらぬ果々雪七歩
瓢の雪雪物ハ物を出す
色角の雪のゝゝと雪歩や
抜蓮を叩く孔の雪歩
すゝと雪ハ雪の歩の松
鶏なり起て雪ぬる雪の氣
雪の歩の二万歩ゝり所ハ
月の雪て歩ゝゝり雪歩ハ
船に歩ゝゝゝ雪歩や雪の雪
花ゝ歩し氣ハ雪歩ハ

○五十四

雪花
雪
雪

雪滝

雪柳

雪花

雪
雪

河土の天の涯まて雪の打ゝ歩ハ
陽月のちんさゝゝ雪歩ハ
人ゝの足さんゝり歩の雪
滝つぶれられて雪歩ハ
滝の雪ゝ雪を歩る歩の肩雪
唐まても周ゝさゝゝ雪の滝
雪ゝハまて遠月の雪柳
鶏のつぶまゝゝゝ雪ゝら
ゝゝゝを歩ゝゝ雪ぬ孔雪の
雪の人ハや雪ゝゝゝ滝
巣を巣に歩ハ心鶏恵ハ雪の雪

松江
笹
牡丹
柳葉
岡辺
白梅
月化
月梅
上総
米
枝水
梵恵
也雪

白梅
芙蓉
凡菊
合
燈籠
紫石
蘭
大江丸
春亜
姫丸
合

紙屋
吉川
帝言
丈左
士朗
擔屯
合
玉笛
合
巣兆
拙天

女星布
秋英
合
丘
百
百星
蓍二
屋敷
垣
南山
眞
道光

合
月花
蓍
尺芙
月化
麦藥
平角
樓
蜆
蛇
蛇
蛇
蛇

みつつ忘るゝあるこゝろの底
拭捨て尺孔雀の羽の箒
そよ〳〵吹やゝ小雪のさゝるる
思たて〻松さて〻ん雪のうち
雪白しもたゝれ光を重
ねかゝりたる世へはなれて雪の月
雪をその子離れたり雪の右
月の雪ふれあうと吹こゝぬ
白ぬりや雪の忘する雪の中
雪ハたゝそのたゝ木の井の底
魚雪ふれそゝ世ゝり雪の門

雪笠　雪花　寒松　蒼白　井泉　雪人　合　其堂　秋峯　卓池　漫〻

海山ハまゝしかり雪の中
あらゝしもふれ雪の小底れ
人ゝて陸船れ雪のこれ〻
雪戸や裏火ふる雪の丈
雪ハゝ人にもれて陸にゝ
氷庵の雪ふれゝ雪の陸
尺あゝすや人ゝる氣を雪の人
雪の背ゝれ雪ふれゝ
南天の実ゝ雪のふるれ
雪のゝや陸ゝ氣ゝ
尺雪ふれハ人ゝ雪の月

雪頂　松葉　双湖　流水　大高　木老　麗　菊村　紫湖　嘉穂　文魚　阿光　安雲　寒月

陸奥　和歌

人に来て人の人

東美

湛園

尾張　京竟

女　文夜

播磨　柔素

後の　石雄

女　尚麻

武蔵

下総

飛騨

蟬や崖に雲にくまなれて

雲の数浮世のうきもわ

数の雲打ちしぐるる夜ふかう

ふるれども数を打ちたる雲

四方うらうらとすの日わ

五月やうしつるれわ月と雲

さのさや二度ぬ夜雲の数ぬる

むく起に君ら雲ぬけてふる流

ぬるつ数れハ雲の和　山や

雲の流いり月れ雲の数

家土の和出の流ふ数の雲

土佐

華洛

城美

岳猫

麦楽

光和

下総

菊也

白考

扇景

南濱

夕

雪

雪ちりそめて夜なほ雪の紅
雪の茅舎ハ月ばかりなる雪の夕や
雪の夕るもたつハ雪ばかり
雪の戸にてるの庭をすくるめや

愁眠　能因
枕双　尾張
木天　下総
一茶　摂津
松月　出羽
望童　仙台
湖翠　蕉左
蕉村　蕉夕
蕉雨　不白

秋

雲

雲ハ山の上ハ雲と雲ハ雲の雲
雲や寒月ハ方月清る山の上
雲と雲と雲ハ雲の雲
雲や雲の雲ハ雲の雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲
雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

存亜
士朗
成美
一茶
魯源
蕉雨
漢竹
蕉村
凡
蕉左
公

九董
白雄
青蘿
麦蕎
保吉
大江丸
亞九
子益
来沙
雲
長翠
成美

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大空やわすれられてよ　歌

大空の上に空なる月ゆえ

伊勢　寛政先生

野秀

深空雅

水海

孤山

拾遺

拾遺

挑灯

挑灯

紫

不孤

菊

岱

於石

深空の月えいはりも都之

大空やわすれられなる歌の良

空つゝみや高の手のくゝるて

有名と空の素て深空や

つゝりて空くれん拾ひ

山里の山月らしよ深空や

つゝ空の月ふもれ山氣わ

うわゝと沈るて空の山詠わ

ふれの殆れ空なる山田わ

山人のいへる根空そ深れる

山法やゆを把ゝる空の氣

者山の空月て年年傘の月

者それ空の者山尺氏ゝ

さハつても空ハ深之奥　山赤

深空の深山樽ハ言くあれ

百ゆの去者空の山赤わ

者山の頼ゝ空ゝ空の元

年年やゆゝ空ゝ空の山

大やれ空の月氏山赤わ

空の山越ゝ月れ月ハ空る

鐵船

斗入

者岱

土鈴

公

乙二

尊源

日人

芳笠

陽子

武陵

雪　雪

谷　谷

林　林

野　野

原　原

河　河

浦　浦

東高
松石
子崖
史子
惟平
之經
詩吟
雅風
多發
乙二
樹夫

雲消
雪厚
不零
養多
乙周
安西
尚山
也青
周史
芭村
保吉

潺湲てらすむすまれる雪の糸　素城
窓　雪　鄭ふるこえ尺くるれる雪のてるれる窓　左右　温子
雪ぬくやあるらさまれる雪の窓　玉光
覚や雪の糸　柳の色　美
川　雪　ゆりと渡すめりり雪の川　陳夏　美翠
雪の川世にいい曲らぬ雪のるる　美二
ゆるるをいそくそ雪のされい　長翠
川れのうれんや松の雪　年仁
石　雪の石のあへ見り新わ　左次　二子雄
星　雪　古星や業ハ雪れ如安ず　樗堂
ふりかすれ雪のつしれ星の雪　柳月
雄風

雪　雪　傘の中も抜之雪の　雪　来光
雪　足　踏りれて死ふて如之雪足　樗兄
いさ雪足ふるいち陸之後業之雪　無村
ふるまへふれしとの眺わ　樗堂
出ぬ人まて墓する雪足わ　万象
一人つ、ふりふれり雪足わ　全
如人に中ふる雪足わ　万象
雪の雪足ふて雪足の墓如　瓦龍　清子
雪　深　雪手や七ッの雪を月のむり　万雄
雪　物　足ら来て大ふふ如ぬ雪ふ　布木
雪　仏　清雪の雪れ死ふハ雪ふ七雪　仏　長翠

雪 光　　湖中
雪 吹　　折風
　　芭村
雪 見　　考按 阪本
雪 岩　　保吉
雪 車　　乙光
　　紀行 湖九
雪 見　　白雄
雪 岩　　青舟
雪 車　　恒九
　　青人

雪 垣　　浸物
雪 竹　　直日 孟
氷　　朱六
　　芭村
　　公
　　百明
　　白雄
　　公
　　青麓
　　保吉
　　岱青

雪車引く跡を踏やぬ星の光
雪垣や蔵へまよひこまりぬ
雪ぶとに竹ぶきのうつ枝小雨
芭蕉出や氷の上の花小雨
歯黒に茶の湯をうむ炭火
下戸ハ去り小丸下の丸味
鶴の嶺に氷こぼるる茶房か
蓬てゆり百日ぶりと遠見
氷る夜や夕べに寄る仕事履
その代ぶて氷ぶるちりうり
流れ来て氷をゆくゆくへか

凡打の木を引よるこゝろは
大多の蒙昧にれるし哉
石に苔あり雨を洗て薄き物
雨にハ水をつゝまるゝ
梅の咲まゝもあらぬ雪哉
木の葉凡や哉れ新の白
雪の戸や小田の哉れ哉
石苔のしるも文あれ霧哉
雲くと赤野のよゝれ哉
梅の雪花ゝる比之雪哉
ひ雪ら赤野の餅まて哉

蒙北
合
運月
成英
合
完来
屋敷
冥〻
道光
養凡
夫閑

り雨ハ月ちまて哉
哉れ年〻人月に
遠れこめ赤野の哉
哉のすゝ〻哉 哉
雲白のこゝろて哉る木乃
霧哉や哉の不の雪哉し
雪ふる花をまむ哉
まゝ哉れ瓶より投る哉
歌詠や哉れ哉れる米 俤
たくまて変ても哉る雪哉
見表のこゝろ哉れ 凡

雪人
白頃
古郷
流泡
守之
遊志
秋水
箕笠
星霜
樹霜
文雪

月　氷
星　氷
氷　花

池ふかうめてるさる氷かな　大和　林糸
江の底の氷踏ぬる音かな　摩笑　治橋
京中や未こハたひらに月氷る　竟松
数の子のゑやに星氷る　都雀
湯あうれつるそそ尽さる花や　千代　胡雨
花ゆてハ入日のつらゝかな　竟古
氷の花の出羽あるゆ花かな　吐月
いく節も月新流る氷花や　歌
結成てゆたる形の氷花かな　紅羽
形の花氷越ゆる氣日かな　不寒
井橋の氷花とうゆ鶴の京　月化
産人

霜　氷
滝　氷

花　氷
滝　氷
凍

産ふ人もうれに氷花かな　賀男
焚立て張井戸底ゆ氷かな　扶蓋
花ゆの底ゆ氷あてるうれかな　白月
葱畑に井ハ不凍て滝氷　月義
ひうゝ二日月高て滝氷る　白鯨
氷れて井ハ高ゆ氷の滝　南湯
夕ゆ井高の宮ゆ氷の滝　大和
高ゆ氷ゆ氷の底の木　左金
高ゆ氷ゆ氷ゆ氷ゆ　集
滝ゆ氷ゆ嵐さへ高ゆ　桂白
松井に氷ゆ滝をつゆ氷ゆ　女九
氷も氷ゆ凍ぬ桂かな　佐久　嘉林
　　筑波　再可
　　白雄

霰

夏草の深うなりぬる垣根かな　保吉

蝶深てうるさく雲の空かな　公

鶏頭に押あつ芥子の小花かな　護国

冬ゆる花や一茎つゝの凡の赤　太卯

木もゝもゝもゝ花ゆるや夏の雲　掬水

古沈に子腹沈こそ寒かれ　茅村

巻の花花に花に花に寒かれる寒かな　黄太

にもゝこゝこゝにれにわゝ女るかな　白雄

こゝゝゝや恵の雪ふる育かな　保吉

人こゝとしふ良わゝを寒ふる　春鶴

こゝゝゝや雪にあれたる小巻哉　道堯

霰

霰の海老ハ寒の名残かな　素檗

さゝゝと京よりや寒の小豆粥　雪笠

寒ふり星のきらめくやちる　寒松

雪りや寒流ゝるの良　夢之

あゝゝれ義の雪ふる寒　光弼

業汁もそのやたゝん寒　鱗〻

雪一羽こゝゝ凡ハ退れゝ　呉秀

雪ハ画にゝ雪しもすを寒ゝ　古節

雪ゝゝゝ光退ゝ寒かな　柳花

ゝ寒鮫沿義大ハ寒ゝ　晩秀

その花月ゝゝれあゝれふる　公

一去年の夏猪の子を産む
夏小川の流れを引きうつ
関の戸や夏草の陰の上
蔭茂り夏真昼の移れば
小夜衣夏やはあれて涼しの
鶏鳴の尾にやもれて夏小
戸
きしくとの底雪の夏小
夏衣きて寄ぬる毎に小
涼たてる忘れぬ夏小
夕されば付る夏小
こ戸とよのくもたつ夏

尋し村
合
閑を
白雄
保吉
梅人
士朗
合
子共
一子
乙二

蔭言して折りてもの夏小
夏ふる雪のよるやこの戸より
筋為う笹を夏小
鶏仏花吟ふ夏小
きまくの涼やうもの夏小
夏草の小舟も連て来ぬ
ひしくとの夏草の夏小
れこれと本立を下る夏小
松ちれ夏たるる池れ
たくれく涼夏水夏
夏売をたくや折うう涼夏

合
道光
志迪
日人
白化
一茶
美子
春人
雄岡
梅子
文角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

辛り嗜けとり美し女よ　　みな　竹園
粉蝶さく人に嗜さん舞　　近江　壺岡
下効等ゝ新ずゝ美嗜　　京　美吉
美嗜おなつれさん人清ゝ　　　凡董
業平八男ゝ子美嗜　　　　　文國
つれゝ代子武も尺十や美嗜　　　掬竹
掬一本拾てゝも美ゝ　　　　　花樓
ゝゝと刻ゝ書ゝ玉子酒　　　　松董
よゝ京の子本に書玉子酒　　京　十丈
ゝ書の樂なはゝ書ゝ角　　　　簾泛
京の花果拾ゝ人ゝゝ仕ゆゝ　　　芝村

鶏卵酒
七美酒
蕎麦湯
脚
腎
蕎麦
水漬
擽
ゝ化

紙や世ゝ書ゝ歳のゝゝ書的　　京　的
書ゝ書ゝ君に花てゝ書の上　　大江丸
毛付や京花ゝゝゝ書ゝ　　保吉
擽ゝ拾ゝ八蕎麦ゝ茶ゝ　　江戸　山川
ゝ桑や五ゝ書ゝ茶ゝ　　京　藤樂
ゝ花ゝ花京ゝ八ゝ　　みな　東助
擽ゝゝ接の花に茶ゝ　　　白雄
ゝ化やゝゝゝゝ花に茶つ　　女子代
ゝ化八冬ゝ人つゝゝ花ゝ　　公
ゝ化や鶏の字茶花咲ぬ　　　芝村
ゝ化や拓に白ゝの花ゝゝ　　京　吉

多仁の実を食ふ事もうつうつ
多仁や下ゑと咲てあれ初し
多仁やされハ実仁ハ乳光
多仁ハ裏こそゆゑ白れか
多仁に一茶も尺ちめ第ハ
多仁や大仕合のずりくす
多仁ハ竹しめ殺られ切れ
られ咲て打れ抜うち多仁花
多仁や大不解をゆく義の事
多仁や麻上下の事をふり
多仁をるの笑れ名れハそ

然る
春亜
道濃
老年
一子
一茶
寛松
庵人
菊也
雨考
書点

菊

ゑられたる事ハ多仁の力ハ
多仁や風の音書の秋 幾秀
多仁を刈くやんのいなまくさ 山城
多仁のうゑかもめや竹の風 下総
多仁の骨折良ちうう 庫角
菊ハいろ〳〵の名の抜てゆ 古弁
菊や多仁の九月の月 懐美
菊や風をうゑ才の八ま 蕪古
菊ハ仁ちゆ〳〵不弱の事 白雄
菊や多に作られ文ちう 柳風
菊や嘆の京八十ちれ〳〵 麿〳〵

[illegible]に折ふれまゐる淳世わ
[illegible]葉の力を入て咲に[illegible]
咲へぬ梅[illegible]
[illegible]月のりるやつ[illegible]
梅めさて[illegible]咲家の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

石蕗花

家咲梅

[illegible]梅の花

[illegible]

早梅

[illegible]

[illegible]梅と来て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

世の人をそしる[illegible]の梅

梅

梅や[illegible]

梅や[illegible]

梅を折[illegible]老の肘

梅を[illegible]の[illegible]に[illegible]

梅や[illegible]のうら[illegible]

梅にうつる[illegible]

梅や[illegible]の[illegible]

[illegible]梅[illegible]

獨梅 獨毒も咲て[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雄
書蘭
保吉
士朗
仝
完来
菊之
鮮采
廉古
一学
月麓

飯

江戸 星丘
庵人
能勢 書池
石波 雪鮮
角来
梵雲
芝村
仝
仝
白雄
大江丸

紙の歯やこゝろをふかしく喰をり
飯喰ぬ人と寄合見ぬ人ゑ
ふく汁のあゝ百年の後ハ
旅人ハあるふく変ゝや
君ゝ代ハ絶しもふるうふく計
河豚変のこゝ仕をゝへたの地
絶られてゝ百年の網ハ考ふ
こハいゝの尽くしふくと計
河豚のつゝ恐しとおもふ
さゝ梅の赤ゝるふくと計
絶やらしたゝ梅ふくの月ゝハ

存亜
主屋
布布
業兆
成英
合
一茶
道義
合
等考
養子

○七十六

虎ふくの兵ゝを使ん為ゝ
ふくすゝてゝふく氏味をしゝる物ハ
飯喰ゝる人のゝしゝを西ゝ
拵られたゝ氏英ふくと計
ふくゝゝゝや毋ハ偽妻ゝより
ハ毒のゝ氏に老ゝ飯の飯
飯のゝ毒氏ハ毒出ゝ
飯ゝゝ氏ハ氏ゝ氏ハ菓ゝ
殺比ゝハ使ゝるハ弱しふくと計
飯ゝ仕ぬゝ毒氏と濃ゝ
ふくゝ氏に仕て廣ゝ角力ゝ

一茶
合
天英
奇関
万池
復物
扶士
来考
折翠
玉河
仁ノ明良

紬　鑛

繰

鄭

乾

紬

あんこうれさんたの八角ひとう
いあり　や　鑛　鑛にむしふまるまた
山荒　一　二　の　沸　れの　産　れ
焼　や　繰　の　吼　る　釜　の　海
去　れ　う　画　の　ふ　う　紬　も　あ　物　う　ら
繰　ふ　さ　ふ　れ　れ　れ　を　た　く　ふ　れ　か
吼　の　清　進　た　ち　り　鄭　れ　ゆ　ち　う
ふ　さ　け　や　ひ　ゆ　め　て　た　た　ふ　の　見
か　う　紬　れ　腰　す　る　る　前　や
う　紬　や　弟　カ　反　の　ま　ま
う　紬　や　う　ま　の　た　し　八　解　よ

護　南
武秀　月　楽
姜　村
焼　ま
去　る
村　く
二　郎
長成　等　亀
姜　村
公
南　文

乾紬のにはむすはぬをあるれか
う　紬　れ　小　所　の　果　て　村　た　く
う　紬　れ　名　利　の　沸　ち　う　う
う　紬　を　発　の　上　れ　美　ん　う
干　紬　れ　れ　た　ち　ふ　へ　し　た　の　見
う　紬　れ　風　は　ば　く　た　る　る
う　紬　や　思　焼　う　て　わ　業
う　紬　を　う　ま　て　仕　舞　う
う　紬　や　刺　方　支　反　の　ま　う　し　て
う　紬　ト　ち　て　ち　ち　た　者　れ
う　紬　の　う　う　れ　た　う　れ　た　れ　か

白　雄
保　吉
几　釜
主　屋
法　号
者　三
美　く
道　美
月　化
光　か
護　南

鈴

牡蠣

杜夫魚

鹿子

垂柳

石海

斉人

梅賀

白雉

伊勢

古賀

茅村

麦湖

元多

雪雉

白雉

鹿物

鹿物や君よりの文もらしし　永

鹿物や芳野の月をしかなくらん　平角

鹿物の歌にたぐへて雪の山　養古

鹿物の歌にたぐへて雪の山　公

鹿物のすんでもすまじ松の響　大江丸

めづらしき月ふるよ也　花緑

鹿物や君よりの文もらしし　沙羅

鹿物の歌にたぐへて雪の山　乙二

鹿物のすんでもすまじ松の響　学笠

めづらしき月ふるよ也　南史

所たてあんかあそれぬあるる
右るあ　たれすそんめるある
人か人をあれめ尊るの後る
芳中を案ろか麿の後る
後る晩の雲　ロ　入
果ろか海人乗たり後る
東より義八りれめるある
松尊よつそ深り後る
ろかそれろかあよ後る
晩八美尺ろらや後る
帰花に案あろうり後る

○七十九

蓮左
白雄
保吉
仝
大江丸
麦雄
年人
不求
後物
肥後　文晩
尼素月

名
雲芳
後る時
雲芳る
後る物

力
教
る
鶴　巣

芳れそめそ　の　後芳花晩る
世の中を不見に　後る
るそけ不そ　そのれる　ろろ
巣子る八芳　ろ　ろ
後る花雲　て　物　雲芳る
後る不見八　てるたり　芳れ
松よりて　や　麿れ　力　る
のろれ雲　ろ　ろあ　雲　ま
松ちまや月　も　晩　ま　る
るそ不松秋　ろ　巣の　松
かそれ巣ま　ろ　いれ　義

扇巣
かまな
文る
麿
後中
芳村
雲芳
丈左
南麿
後物
仝
伊賀　車来
兄直

大根戎

山ハ皆白大根ひろうまいぬめ
引ずる大根のなまあしか
凡そ見を吹たる美大根戎
大根りて松ハひりの如くり
出明ら幸も打や大根引
上藏のえてゆれたり大根引
寄むれりるり松や大根引
そ一段出をおるや大根引
明雀の大根ならそのくそ
野のえくたはあるり大根引
殺ゆやるのくおくハ根引

作法 一考

也有
白雄
几董
蕪村
会
一子
蕪汀
道彦
一茶
隆安

蕪引

大根引蕪むるも蕪て仕舞ひり
るの力係る根ハるも蕪引
松ハ蕪蕪引寄の蕪ゑれ
美人のうるるれつ出蕪
うしろむりてゆるる人ハれ蕪引
ゆるれ〻ゆ〻ゆ蕪ゆ蕪
たゆて罷ゆ蕪蕪千蕪ゆ
故蕪して世をや寸れる縣ゆ
ねるれてあるるる過ゆれゆ
蕪れめむ蕪れめるり蕪ゆ
ゆゆゆ根もるハすゆ蕪ゆれ

蕪蕪
女子代
赤梨
寒松
完和
蕪石
蕪古
白雄
蕪蕪
有聲
一蕪

千蕪

葱

山の戸や干葉ゆらめく角
葱雲かな　杉木の中を降るか
葱とりに関所やすぐるたより
つめたき物すけたり葱の香
水つき汁節分の夜の小豆粥
小式部ふるさと机淀烟
人中に死ぬ葱ばかりかつぎ汁
葱らしきよりのをしたる庵
花ちるもしらぬ烟
葱烟すけて寒風物か
孔子の教あり常しが坂

吉百　武秀
蓋村　多治
去物
鉄弧
保吉
士朗
双樹
道竟
岳船
青人

浅漬

風呂吹

納豆

浅漬の菌に迷ひる男　卜
ふるさやつれてあるかを
歌を見実に弱点卜
入道のうとをまりわ弱点汁
うつとんやうて雲ひり
人も合器もすり瓜てて弱点汁
おもしろ撫ぬ弱点汁
花ちる梅ばすりたて弱点汁
うつとんの古実なるしや白角

蓋古　去卯
夏雄　光芳
蓋村
午仏
道竟
自蓋
蓋之
平角

佛説貴白鳥長者下

卵生

[illegible]

しはすの末をさしあしたる雲や
魚に詩学世の人にそしれわ
丁鴨の上するこゑしはすわ
しはすぞれに五人とる漁わ
いそくも見えしはすの帆船哉
野ちるそのやしはすの雲白
月のあいてんれいしはすの日之介
音長さやしはすに海老の尾
白雲やしはすのむの船
杜の月しはすのやに入にけり
鶏鳴五人ふるふるしそれわ

しはすあくふこそや米寿半酒の年
月のみも鮮にるるしはすわ
花ちる雲に松もしそれわ
山星にしはすを見るる梅の香
亜光に亜考るかやしはす哉
山星につれ解年しはす　わ
雪の雲に月をかりやしそれ
あやもかくこはやしはすの子孫
元旦やへのそそを浦の路
美歩中に車乗りしそれ
木に折に紫のあるるしはすれ

寒鴉
寒九
蹴石
仝
江戸　梅人
長聚
樽屋
仝
丈古
岸花
天美
道美
宛松
霞人
養子
護鳥
旦々
子孫
玉之
芳光
大和　歌石
流水　双鳥

仲冬月

車　初

八

九仙　能ず二蝶
素迫
亦人
仝
可唐
亜笛
周文
仝
鶯　かなり
大膳
白雄

仏名会

孫ハやすくこのあれし月の芳
孫ハも常一の迫の勢康か
孫ハや松風さそ梅花書
傾とも云へいたし青仏名
仏名やかりあるも冤の数
仏名や嘘ドもを花を色
青くと後のるまて青仏名
仏名やうやむ神も変の義
青年うう月花さそ仏名会
仏名やこ人変あるる義　芳
梅の月の寓に光るさかか

寒

鶯笠
義百
鶏風
義古
勝心
ハ戸文長
宋英
書宋
仙風
女抱
梵変

越前の川　越中　長吹
表紙
保吉
合
斗入
春亜
松兄
士朔
榜童
合

合
業兆
成英
合
菅三
圭半
乙二
合
冥〻
常蓋
合

入川のくれしは遅ざくらかな　寛松

人ぞとも名をとはれぬ冬ごもり　蓼子

ひとりのこのこれぬふるもしかな　白魚

狩ぐらをしをるる木の上　武陵

雪芋掘る吟よりしぼれ　月庶

年のくれやこしをたたみの雪　久臧

雪のふるをすまるしかな　文角

川音に遠ざかりしかな　尾張　我竟

あるましいなる夢ひとのしかな　支撲

鶴のそられてしぶれかな　月松

こしよりそれいふるの鶴も消る　沙王

○八十六

蕎麦の本屋のるだしかな　蕎麦作

梅ちる淡雪ふるかな　長峰

本紙ぐるんのかのしかな　一嵐

こそれいふ雑くだる蕎麦かな　青竹庵

丁明にくをしをるしかな　久光廣

人ぞをぬにすこしかな　仙子

こそこそやたる時の峰の松　風子

こそこそ代にのしかな　鶴亭

こそこそやするるの波　乙二

こそこそやなるて見る鶴の月　一峰

こそ夜　四ぞかむ嵐のしかな　七子　鶴九

芝村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下ちるこゝろをのこすおもかは
松風とてるはうれやそしをかは
てもさても浮世の業をそしをかは
そしをかはそのあるるはかりをかは
掛るこゝろ法をんそしをかは
そしをかはあるるれをかはるる
そしをかはの柳の陰にたゝずみ
そしをかやたゝ風ふかるるそ
そしをかやあるるすたるるそ
そしをかや庵りのかたるそ
そしをかやねれをそれ嵐の秋

宗完
常陸 雪玉
祥永
道元
長し
貞化
摂津 一路
芝村
貞信
長崎 淀川
芦澄

そし 道
そしをかやたゝ風ふかるるそ
そしをかやたゝ風ふかるるそ
月をそ
角力そ
そし 鳴
そし 名
そし 多
岡 光
光 月

長崎 伊勢
芦永
他力
山城
了静
丹芳
玄玄
宗兆
芙蓉
芦澄
晩元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬

冬

冬

小窓寒

冬籠り

ようあるとこるあるとしをうそ
鶴のをくつのしたへよりそうそ
吹ふきをそ寒さいとをしかの窓
ふかしるしをかの寒い窓れす
詩の係に花信みせをそ籠
をくしれ春ろかれいをそこり
春ひくるをて月をれ物うを籠
花脱てをにくをれをそこり
をそ籠雪をしいのひに時
堀ひつををきめるやをそこり
指らわををのいんよをそこり

道夫
合
梅廻
月化
多藤
樗元
蕪古
芝村
合
梵雲
白雄

をそこり深みのををに入ぬ
をそこり貴史に巻る眠蔵や
現笛窓稱のはやをそこり
をそ籠れて閑なるこわ
切るる貴をるをれかわをそこり
花信をに信しいをのそをそ籠
をそ籠貴ハ者ををこるこす
京衣ハをを仕保眠やをそこり
をそこり京ハをを外やをあわ
をそこり春をを人をこり春ろわ
記をこと人への沢れこりをそこり

合
閑史
楼美
蹄石
合
斗入
合
抱見
松見
春亜
旅号

[illegible]
遺業の先[illegible]
柳柳より[illegible]
[illegible]
葬の夢[illegible]
[illegible]の人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
天元
[illegible]
[illegible]
成美
[illegible]
[illegible]
一茶
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬月

常盤ゆつ春はあれども冬ごもり
冬こもり春に折しく梅の花　法橋　長頼
月花情を定て標木原　江戸　作邨
冬の月やゆゆしき美人　覺壽
冬の月つるぶさしたるやゆ　尊志
ゆるめ淑治の森完や冬の月　周史
冬はしる新玉うつに冬の月　白燈
冬の雪花ちらさし心の上　伊勢　桃波
冬上に為れ冬れかの月　岱書
楪やさらしくるる冬の月　勝石
大内裏一時代ゆ冬の月　保吉
順九

冬しうまよりれそ冬の月　公
あ冬に周ゆ冬たり冬の月　士說
さりしと昔ふ心冬の月わや　公
冬に淑あ冬やの月　公
百人ゆ冬の嘗ゆ冬の月　肩心
冬月ゆ冬ゆ冬の月　樗堂
冬の月人に冬退て新之　公
梅ゆ冬梅ゆ冬の月　成吳
ゆめ月しゆ冬の月　嘉望
ゆ冬冬郎梅月冬や冬の月　公
梅ゆの冬月冬やあ冬の月　冥之

長すきてふるとしをの
吹嵐すゑやまもあらんをの
井戸やら井ゝおゝいやをの
ゆ屑の月ゆるゆるをの
ゆゝ風の小さゆすゆをの
柳の糸めをしゆるゆをの
ありやゆうゆゆをゆをの
藪の木ハ曲りゆゆをの
月をつゆゆゆかゆゆをの
ふるまゆゆゆをの
暮めして木ゆゆをの

道意
寛松
雪笠
合
樓堂
養子
意人
卓池
井汝
其堂
且丶

あゆゆ雪を捉て並ゆをの
すゆまゆや男の月ゆをの
潰ゆゆ影ゆゆのをゆをの
いゆをゆの花ゆゆれをゆをの
ゆゆふゆゆさゆゆり捉てをの
雜抱にゆゆしと以をゆをの
月にをいハぬゆのゆをゆをの
をゆの月ゆゆる秋をゆり足をゆり
をゆの月ゆの嵐の上にをゆり
ゆゆ雪木にゆゆあゆゆをの
山里やゆゆむをゆれをゆをの

路光
湖中
流水
花素
如淵藻
古之
指月
井古
能
双馬
蜀淵
素琴

冬　九月

花よりもうつくしかりし冬の月　芳丸
紫の戸ふるまりの冬の月　雲僕　漢水
見めぐりし末こがらし冬の月　横鹿
鼎かのそのかれるたり冬の月　甲斐　鶏魚
冬の月沼もさゝなみの上　丶方丸
冬の月名もうつくしき海の冬　江戸　茅舎
世をうつし蓑の乱りや冬の月　京　蕉雨
あら海に冬ゝやされて冬の月　備中　晋和
松をうつるやゝ入江冬の月　亜梁
月をうつるもの冬の光かな　焼香
冬の月凡鼎にうる作れ　公

冬の月破りて池にしたるるかな　公
冬の月や桂本殿中の冬三年　芝村
冬の月やゝ孤の光物代あと　白雄
冬の月や次ちられたるものの新　鼎者
冬の月やうつくしと接る鶏卵売　大江丸
冬の月にうつくしふ冬の力　士朗
冬の月や鶏を冬のくらめく世雑　向秀
冬の月やうつくしと冬の角と角　木僊
冬の月や冬のうつくしき雪色　華洞
冬の月や柳うつくしいるうつり　成美
冬の月や月代きよ男ふり　不易堂

楷

きしの月や星に粧の紋つゝみ　如泥
大きゝや八月所しお楷の月　一葉
きしの月やうのきゝある沖は風　爲貞
きしの月や垂柳にさはる笹の吉　宇洋
秋の天月ゆきしきれまりう　車両
きしの月や風もさはる水の乳　武眉
きしの月や案山の笑の耳に残　俳歌
かきの月きゝにあるゝ戸口か　女貞
きしの月や波にうつる鱗雲　掃雄　花外
人ゝきしの月ゆきしきるゝ　古節
狂気つゝしゝ楷の月　晩秋

ゝしけれもそて楷の花
落燈ゝるゝ楷の梯の花　白雄
楷の夫やるに尺ゝ尺良　保吉
道中人ゝきに星に楷火か　春亜
浮世孤ゝ人ゝも尺に楷の有　乙因
楷の夫の黄ゝゝゝ苟ゝゝ　柏九
松山に行きゝ楷の有りか　猿丸
楷つむや梅をおる尺古帝　丈平
清の中流ゝ楷の清る上　楷堂
楷黄て茶碗取ゝ良貞か　公
黄ゝゝりゝの楷も八九天　業兆
一茶

炭

樗の実や立ちたるひいらつ　樗堂

樗の実や見る度代の良く乱　一茶

樗ちるかれたまや半の炭　芋笠

樗に座してたれいちひさく鶯か　寒松

樗黄ばみかれにも葉もなかりけり　来年

牛ちるハ必ずあるこの樗のもと　枚枝

松ばの炭を立てて樗あり　叡英

ちるなりと又ひろひ拾ふ樗　宗古

炭窯　伊勢

ひとつまやめりあれ者ちるとう　白梅

炭ちるや一文い銭て見る昭　一茶

窯ちるとまと言ひて自分わ　道竜

炭

窯ちるとたの小屋もうかせわ　一茶

窯ちるや酒月ちて上ぎり　武陵

松ばの炭に涼入れい者を焼　半古

ちるとわや窯を砕ちる　義古

婦人よ窯ひ者ひ者尽れかり　几董

窯のあやこれもかの花ある茶　盛書

窯のそるの人のんの春つれ　保吉

つちして勝く窯の白ばわ　勝石

窯ちるとれたるれまを窯ちあり　春汀

炭をたてるれまを窯ちあり　仲央

ちるとの窯ちたる彩の多　士郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入月に白ふくりて猪炭わ
炭燒國に燒ゐを作ゐり
炭の炭や秋の気の流を見て
分ふに松風に入炭火わ

炭賣

炭賣に流見きる女わ
すゝ炭のこゝろ寒や方に貧
炭賣の義に流さしよ九十之
売ゝとるきつゝすゝ口わ
炭賣て外ろ金へ戻りゝ

囲炉裏

めつゝ定を鉢のいろわ

火評

炭沢山の火沙わ

流沙
東為
女流凡
鶏雞
茨村
美二
乙国
橋堂
完来
改二
大江凡

火桶

たゝ三凡俳諧る火評わ
ふれぬ人ぶよりあり生を火桶
猪に成て人に生ゐ火桶わ
ふれ人る女の中に火桶わ
人ふれぬ火桶ゆゝて粥ゝん
火桶抱て三凡に入ゐ
ゝゝ人や火桶に法一番
月灰や火桶に坐む菊の花
火桶抱て三凡に下ゝ安凡塩
抱ふゝ秋中や松凡相火桶
梨壺の人むつゝゝ桶わ

十其文
茨村
合
茨を
月城
凡茨
二柳
盛壺
然号
桂水
壺機

巨

燈

[illegible]

角力とりの素あてる中桶や

しかれる時代の月子大桶や

[illegible]の書あり[illegible]

人老てゐる[illegible]

ひとりぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

炬火

足伸て炉のもとにつゝわ　半古
美名の蘭やうるつゝわ　古帝
炬火やつれなき夢の海の音　芝村
炬火をくゆらして坂を子をしたる　几董
をしむ雪や炬火周くふる夢　白雄
炬火や寄しる風の寄り　太
うつゝ火やいく秋の集る泉　春蘭
炬火や老のくんの面りわ　昭九
炬火を見て寄るをりわ　表丁
炬火見しうるを人さわ　一茶
炬火やをそをそをりわ　月丸

炬燵しつまりうるにや松の音　蕉笠
海士の炬火をくゆらしわ　白
炬火や指につるる枕の月　卓池
炬火やをくる芝を焼る　定人
炬火や素を見きる月元　秋色
炬火をそをそをる業作わ　月松
炬火や灰の海入る船　歌
炬火やむりふゆる松の風　半雄
炬をいく片迫つをそやをる麦　一雄
後を見ぬしつゝむる焼炉わ　定人
焼の紙をくゆらる焼炉わ　歌古
陽陽　楊良

巨燵樽
焼炉
陽陽

衾

[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二人扶持[illegible]

[illegible]

[illegible]

也有
柳九
芝村
仝
號素
素九
存亜
柳人
ノ旦
齊人
米竟

宮柳
芝村
美子
月紅
士鈴
云為
南陽
大呂
柳美
勝石
存亜

月化
寒松
玉鉾
女遠よ
九井
要
菜葉
月芳
九
侍泉
魯源
寒松
巣也

秀風
未紫
桂九
月化
俳諧
蕎六
梵音
九董
宝摩
存亜
踏石
樗堂

冬
冬
冬

冬

囲

半古

芳路

梵雲

保吉

一茶

道光

斉人

芳子

渡地

杜英

古民

○百七

札納

衣配

巴静

尾張

芳古

芳業

斉人

子路

貞松

高原

飛城

士郎

公

業兆

煤掃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]より清し 蘆古
[illegible]も来[illegible]る 道亮
[illegible]小かるやう 月瓢
梅の木も[illegible]て 子敦
[illegible]小かれ 一葉
[illegible]梅花 公
[illegible]ちあり
[illegible]ひ
年貢 [illegible]白玉
[illegible]て[illegible]の貢 白圃
[illegible]小枝も 芝翁
[illegible]梅 恒丸
[illegible]の小かれ 秀成

[illegible]て家[illegible] 摩
[illegible]れる 来之
[illegible]の白[illegible]梅 保古
[illegible]て[illegible]心 京人
[illegible]も来 周之
[illegible]る 儿董
[illegible]小[illegible] 学笠
[illegible]の梅 尊源
[illegible]梅[illegible] 京人
[illegible]梅[illegible] 秋古
[illegible]の[illegible] 之及

年越

多賀や老も笹原の好へあれと　江戸　乾舟
としとやはふるまるるかな　元禄　拙魚
名殺の言ひ捨てし一筆わ　寄閑
まりてさやて百九あらしわ　英流　茅栗
瓦さそ九泊ハ漏うさ月数わ　英古
塀塀の出る九出うう瓦扎　素九
やさそ九寒りに下ゑ打発　言古
木兎に瓦つけうわり瓦流し　英作　月麿
拙さそや築地の崩れまて　拙英
英深は寒いも見る拙わ　乙二
拙さして森ふ九煙うつ　秉乳

瓦扎

瓦扎

拙掃

月花の栗や拙に赤い月し　柳瓦
瓦季ハ　拙久ら拙さそ瓦季ハ　英古
瓦季ハいハ瓦る人のるわうん　成英
ちやさハた名のうあ相ふ人ふあり　仝
にッ辻やちやさハたうさ風う吹　洋秉
いふ年ふ人月に瓦瓦季ハ　昔之
学に拙そいに拙け瓦季ハ　一子
やさハやちやさハたうあ子を連て　英九
やさハたさ瓦ら食ハふうさやす　道竟
ちやさハやさ人さて小ちやさハ　一英
やさハに赤ら明ふ月ハ吹ふ　布房

年内立春

市

雲斎
米花
支鶴丸
女子代
蔦吉
喜作
士郎
成英
不寿
雄吸
保吉

白什
松井
完来
道光
月化
義人
乗宗
歩雪
迫石
可凡
共業
養鶴
其文

羽子板売
鶴長売
門松売
注連帯売
歯朱

門松立　弓屋に松表に立て囃ひたり
古　屠　人住むうめ柏の古こよろ
　　眠うつれ柳ちりわるこゝろ
屠　夷　屠夷見元に白い芽ふたり
　　元食べんと狩むるの屠うり
親味噌　親子不許山ちに文書る
　　賀来に元ゝ忘井に誰うか
　　いめしや緑みすれまゝれ
　　忘茶にさやして酒めり
　　うぶ忘に扶し焼やし　忘
　　ようせるゝ大ゝまを忘れう

○百十二

関牛　弘法
九董　柳荘
一茶　夷葉
寒松　庵人
不鶴　雄閑
庵人　宜麦
蕉右　柳岡
樗良　二蝶
素丸　蕉村
書蕉　方々
大江丸　道光

忘ゝ忘れい忘ゝ忘ゝもゝ
ゝのゝらあ男ゝたし忘　忘
ゝゝゝと平ゝる人やゝ忘　忘
松の木にゝれて見ゝやゝ忘　忘
夷茶茶ゝ扶ゝむゝゝやゝ忘　忘
焼ゝ扶見ゝゝゝゝゝゝゝれ
忘忘花の夷ゝゝゝゝゝゝゝれ
扶ゝ忘ゝ忘ゝゝゝゝゝゝゝ　忘
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　忘
ゝ月ゝ　小ゝゝゝの出入やゝ月ゝ
　　花孫いつゝゝあゝゝゝゝ月ゝ

年つもるまの つゆ雪に白に埋まれり
年暮れて 松の葉も第一にあはれなるの暮
春近し 天や暮れて元日をいはれもなん
老松や春近つゆし葉のかり 乃枝
初第の春の月見も春近し 佐陸
嵐子や春待つの月夜かな 武田
うたたねの枕もまいかも見れば 白梅
春まつと人のあるる宴かな 姫丸
春まつや類万親赤の筆の口 斎人
営まるまりて春を待ちて 護国
まつ春のあるるにあらしめ板れ 秋夫
吳光

まつ春の雪ととけり民部丸涯
ゆつり葉の春もまだれる丸春
春まつ色あらわるる柳かな 仙子
来るる 来るるしの鶴ゆるん 松の風
春 筆 春筆鏡のゆにたれり 可笑
春 雪 ゆるるの道ゆり堀めるる宅 亜梁
春 春成中住待やう起れの春 光雪
年を筆の春むしてしの春 古白
春の雪隠春るるの見春しよ 梅丸
万倉の根のそれるるも春れり 蕉古
筆ゆしまるつしの春 光雪
入 保古

[illegible]

人の上を人のいふ事ぬ
[illegible]の情[illegible]
老ぬれい氣の上のしの事
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

合
存亜
合
甫尺
長山
士鈞
浙江
樗堂
巣兆
成美
合

[illegible]の事
淋[illegible]人の[illegible]
[illegible]
小姫の[illegible]
[illegible]
[illegible]
牡丹[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

完来
蓼之
一巣
雪笠
竟松
京人
文角
自意
魏邦
服洋
可美

[illegible]

年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月夜の洞庭に敷の杖　陸奥　貞中

月見れば寒しと思ふ流の秀　飛騨　均芝

月夜のうへり路の歌かな　冤郷

月夜の背に流るるや船ぞ　渭翠

月夜に杖へたくるやいのむ　陸奥　柳子

月夜や杖をゆくりの赤小豆　飛騨　東路

焼　夜

枝赤くなりて手をしのきたる

大晦日

来年へ寄りて菴の飯　存亜

こしらへの藁屋見し大晦日　年仏

なほ冬も花い家むしの大晦日　東雨

学のふれてあるを大こそら　鶴之

大こそらふるへ花の年桂

大こそらの炭やの炭もこるうり　兎表

月の炭や民家流の吹ぬ　保吉

除夜の路の絶学るとも晴しい乾　芳之

こそ実て見ても熱の陰の流　乙二

月のわやかれあ木枯るを　道尤

弱いなりたる木を青　芳閑

りたやあれかこそ表の　右雄

暮雪もゆるの木の百か　素琥

月　板　月岳　月の木の板　陸奥　馬年

月　雑　月やこそよや表ゆるうり　芝村

[illegible]
人[illegible]の[illegible]猫の[illegible]
[illegible]
山[illegible]
[illegible]
[illegible]

世ノ四樂放下なしいふもあり世ノ中ひと
ゑ式なけうち録をしはやとるまはは火をのこ
入るとゑんを愛を愛ふ事録と彩しなと
ちまくのわき人乃めいとゑんを事あ登
志記まてのゑ式なる寸是を志つゝに拾ふな
外乃者ゝを為る寸しはゝ乃ゝ為事に
なまくゝて作ひはゝ乃ゝ為事を為ん

至れりなるまで生へて大川の底にかくれ
ぬるまで郷のひの句法をむねとひとり稽古
乃心我法をて後勢法をうしなひ姿の句色
不出入なり自和哥に師なしと見えたる
ひてなりとすべしとの説人の求なる
変我をめてふくちかく我をもちふる我を
なり我やいま初の林に入る見山に乃枝
折ゆりて世にひろめむといふ人あり

浦人たる節とのふ拾遺よりて長我翁の比諸門
人等外名たる俗人の句ハ諸集より散
見すまた見出をのを紀てを世寶暦比より
此るとを乃仕業まて廣くあつめ稽古
ひて等數一万三千余句より至る我ほて
等仕例我みむ人を法書にあ比ハ顧ら
事ハ一わまを我よ人のいろ夫木抄とも
名法ぬへ紀のといふ見を法よ見常に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

隨齋家[illegible]跋

培蘭

附錄人名居　班位不序

山城　如泥鄉　燕村　闌更　耳考　瓜流　久風　野明
蝶夢　大祇　紅羽　秋烏　共諺　都崔　一山　一瘤
子鳳　為文　芹水　丹芽　車蓋　芦角　儿董　一桂
安里　宜甫　来之　吾仲　諸九　可樂　方山　琴之
紫暁　賈古　荷屋　金毛　鳥和　丈左　春坡　南岳
馬印　麥宇　倭泉　嵐月　土髮　定雅　瓜全　蒼虬
雪雄　梅價　百池　芦涯　土卵　空阿　五芳　松蒼
其成　居然　毛舉　月峯　南暁　芦丸　蘭二　應美
嘯山　江蓼　金莽　鵞少　若夢　[illegible]　馬龍　月更

菅島　葛年　桃江　丈石　芙九　栗翁　可南　乙道
十丈　采也　岱李　布雪　草阜　千崖　茂良　杜蓼
守三　暮四　有中　柳江　沙村　霞潮　東裡　路一
漢水　十壺　橘榮　鸞太　貸僕　里殼　萬柄　文雪
予靜　桑居　乙彦　寸我　白蟬　梅居　文芹　共樂
芹坡　烏雪　葵砂　好古　桂眉　百丸
大和
嗽石　龜水　千代　濮水　緩駕　左禽　杜口　和山
可亮　憑月　布荻　巴摘　彌山　林糸　卯明　福丸
香宿　可翠　暮來　其杉　拾葉　絨勢　墨溪　哥鳥
河内　嘉樂　其鵬　秉紀　月簑　蓬宇　徐菊　氷水　楚山

一翁　嵐來　古光　其桃　南光　沙王　八之　可省
雪丸　竹圃
和泉　喜齋　背笛　魯月
攝津　淡〻　車庸　因之　櫻叟　二柳　大魯　自樂
李友　大江丸　東雲　五趙　春臺　友國　弁六　水僊
百堂　水儿　方水　一草　月居　尺丈　瓜坊　奇淵
長齋　魯隱　三津人　萬和　井眉　桐柄　蜂友　芳中
鵞雪　麥太　岩苔　梅後　吳光　米彦　屋烏　星譜
竺齋　夜來　釣豹　瑞馬　左逸　三旨坊　扇暑　松隣
汝川　草僊　祇杖　杉良　素虫　春人　春哉　春思
白涯　二蝶　吾崔　可隆　吾萍　春魯　未徹　左角

天馬　三霞　竹亭　鬼將　東宮　巳明　風雪　菊房
月巢　尼外海　晩翠　屋馬　東明　亀村　芳鶴　梅烏
水老　史川　士川　吳服　籬峰　里人　唐來　女桃葉
花外　秀丸　息石　少齋　一鶴　二鶴　今貫　一馬
五道　嵐谷　松月　蕉里　几仙　嵐亭　尼冬色　淺生
壽樂　松子　遲春　染雅　公路　省三　白齋　桃柯
天來　玉叟　紫鳥　柢白　九玉　茶來　五株　春渚
伊賀　女笹町　女遲栁　女榮　女てる　女柔
一醉　朝竹　車來　士得　雲江　猪來　梧鳥　閑竹
伊勢　樗良　素道　披仄　杜菱　披長　宗居　宗雨

野梅　五角　左涯　青川　滄波　弘臣　石燕　李石
關鴉　六龜　羅外　沈水　虎國　右存　春波　浮石
為貞　馬曹　来汉　景山　杜影　桃波　曲郎　蘿父
閒樵　龍石　他力　鷲溝　花賦　左竹　左濱　佳夕
子得　丘高　官父　渭川　不求　見風　香有　無曲
椿堂　雪仙　舍乙　五蓬　寸明　孔阜　洪石　烏翠
椎巴　李東　翠川　如雪　鶴臺　菊所　一路　周終
梅二　杉蓋　宵我　長芽　志完　半古　無牛　丹霞
夙也　巨洲　宵吾　宗古　曲路　昌作　野渡　雲子
尺翠　六外　一木
志摩　如山　醉瓢

尾張　兩栫　曉臺　也有　巴靜　白圖　岱青　一玲
共笘　羽墨　等亀　南水　鳥桑　野秀　蝶羅　壽山
理玉　辨二　羅城　松兄　士朗　臥夬　琪六　天老
桂五　白尼　五雄　帶梅　岳軌　塊翁　快臺　秋麿
大阜　少汝　金谷　梅閒　月底　沙鷗　不轉　鹿野
應汀　墨山　大商　寸みゝ　袁外　餘祥　松菊　大巢
平齋　國水　由肆　賈天　菊村　李臺　東陽　足彦
大蘇　硯静　黄山　昆明　谷臥　木天　永齋　岱雲
水客　五老　琅古　龍眉　月巢　茂東　鱸亭　閑樹
飛竟　宣彦　楚山　逸人　有礒　得芝　青峨　松呂
旭山　阿城　徐英　葛井　葛藤　魯堂　駕風　而后

陸馬　東蹊　白樹　墨樵　秋國　一風　来汁　眠屋
虹陽　杜堂　倭中　沙玉　李臾　可玄　牛来　梁臺
五道　湖風　竹趣　圓曉　栗天　野喬　可竹　路郭
和平　路大　友鳳　遊好　三糸　里山
三河　青牛　浮流　祖風　麥二　木糸　方明　卓池
秋擧　岱呂　楳老　其桃　箕山　東鳴　木芽　白羽
喜春　茶筵　木芳　東雅　流芝　南老　巴洲
遠江　瀾古　百洲　起石　水甫　雪本　橋夢　吐鳳
駿河　蓼舟　左逸　文武　月竹　里仙　梵阿　馬老
萬古　菅雅　西牛　挑舟　鴈赤　石雅　良岱
甲斐　烏我　東里　冒都里　漫〻　嵐外　有斐　蟹守

太年　槌村　重行　漢甫　臺眠　鱒魚　鏡平　草丸
一作　草烏　真恒　作良　山甫　方居　才馬　遠兄
裏山　亞梁　百二　物成　都氣人
伊豆　一瓢　連枝　官戴　助董　雪髭　米堂　省已
春成　真砂見
相模　春鴻　麥水　巴水　澄水　敘來　葛三　玉珂
丈水　雉啄　方斛　ど〻　石年　洞〻　鳥流　松雄
乙鷺　文魚　松乙　之道　大曉　雪路
武蔵　千尋　屠龍　花候　真佐　不角　仙鶴　柳居
鳥酔　意程　一雲　門瑟　蓼太　百明　烏明　柴居
山川　左明　白雄　存義　百里　紗言　得牛　笠扇

雷堂　米仲　玄武　寒玉　柏樓　平砂　吐月　丁濤
梅居　雪左　柳儿　樓川　呂曉　泰國　乙河　文岡
敲水　湖風　宗讃　秋瓜　牛飲　鬼秀　宗瑞　似鳩
素丸　風洗　斑象　野菊　瀬川　金峯　百川　保吉
政二　素菊　鶏口　卷阿　梅人　西羊　棟花　寸來
石嗽　故流　馬十　輕舟　竟平　木奴　雪江　悠心
冨屋　菊明　莫莱　春海　無說　以足　可僚　文足
蒐六　六窓　浙江　雪萬　素嶋　春蟻　丿旦　柳也
巣兆　花縣　星市　白麻　莱波　京傳　成美　完來
莎笠　沙羅　蠣潭　岸屋　牛心　田雀丸　白芹　普成
成蹊　東塘　雅磨　萬里　竹文　袁丁　來帆　百華

道彦　鶯笠　寥松　蕉雨　護物　水海　對山　一戎
其堂　旦〻　碩布　立志　紀逸　宜交　素外　兀雨
文晁　鴨齋　南湖　董堂　蜀火　素玩　一阿　三化
莱石　心非　壽翁　國村　北元　右雄　双湖　孤山
胡準　一慧　可磨　詠歸　久藏　巢也　國甫　鷄川
黒駱　竹效　巴江　九朴　藏煙　萬外　座来　糸年
應〻　河〻　曲阿　老阿　秋兎　鳩丈　外古　梶市
澤至　芳洲　楷月　葡鳩　以兮　濱藻　竹馬　車両
守静　陶里　玉光　任只　素桃　晴牛　山人　諫甫
山充　豪山　芝山　茶静　宇橋　素樸　碩齋　鷺雪
啟山　梅夫　自来　山松　梅年　南井　文都良　狩無

笠甫　莱山　鈍齋　丈河　鳥路　粗文　暁雨　錦城
野遊　子交　月樵　桑嫁　兎文　南山　南濱　五百丸
高駟　夫山　太我　逢志　几秋　二川　嵐者　海也
蹄川　巴人　三壽　一雨　明良　有穀　語竹　秋耳
季道　子共　我風　一夢　秀都　吳葵　梅郷　淇岸
泰人　梅英　午桂　老鴉　信丸　萬船　雨籟　長閑
乎馬　可笑　金花　敬哉　杉貸　杉杖　江鷲　歸堂
可良久　燕子　東美　糸葉　東崔　稲逸　星高　草芝
吾嬬丸　文園　梅岑　吉雨　一雄　英久　竹邨　米花
玉桂　雨穀　梅枝　桑東　湖風　抱朗　点衣　おのぶ
ちゝき　ちゝき　遊女　江川　白玉　會見　豊岡　瀬川　路考　芦錐

安房　也州　杉長　郁賀　卜鷲　其文　亞然　鳥周
斗白　一盛　素共　平雄　雨蟒　宇明　竹由　東居
柞杖

上總　天府　雨林　林鳥　一腥　輪之　白老　里丸
呼牛　桃支　音八　雨十　葛　五柏
下總　兎石　桃原　灝凌　鳥朝　壬斧　巳蓼　存亞
長聖　きく　双樹　恒丸　さと　素龍　眉尺　祇来
兄直　三顧　雪洞　きせ　梅後　青岱　半兎　鞍丸
素迪　鶴老　秋左　柑翠　雨塘　一白　一長　古彦
月舩　其明　故校　至長　素月　研石　梅暁　蒼峨
桂丸　茶彦　金堤　帷平　李峰　脇水　鵂雛　東騏

之綱　榮松　石覬　倚風　鱗〻　尚山　幽篁　梅史
普記　汐里　香風　如柳　嵐文　青岐　馬遐　月丘
月芳　成之　猊母　素綾　蓬呂　丘黛　蛩山　呉崔
求一　文蘿　松巣　蜃路　蝸崔　玉彩　帛笛　錦哉
可門　その　孔榮　汝南　斗周　月暁　眉月　兎郷
角米　菊明　若雨　素孝　恕柳　燕巴　兎園　牛乳
ちゝ　三止坊　観之

常陸　知廣　浮来　祇徳　車童　遅月　常南　五峯
不脱　阿量　卜甲　湖中　左文　洪水　由之　李尺
有美　文川　雪守　松江　柳麿　三有　杜年　風後
眠石　鬼平　一止　義香　村江　祇三　瓢翠　雲槎

昭眉　知水　九似　知殷　祇鳴　雲翼　隨和　一風
近江　田札　青苛　秋石　冬柱　遲望　都覺　魯江
可風　重厚　邑洲　馬瓢　菊二　青楓　祐昌　賜道
芳之　蜄州　申齋　千影　于當　亞溪　烏頂　志宇
繡帛　宇洋　可盈　文常　士明　春雄　班車　罷山
栢翠　春坡　洪周　巨洲　蕪巾　三省　笳音　石虞
素律　花陶　松毘　鼈梁　砂文　文山　東明　獻美
元美　茁堂　白民　水友　百枝　蒼人　梅園　仙李
汲波　還古　玉英　梅雄　古猿　素流　里童
美濃　宗志　童平　五筑　楚流　以哉　雲裡　左流
七兩　三伍　箕十　右範　千阿　草人　翹平　丙于

萬朶
飛彈　步雪　遊魚　儲史　平芝
信濃　友梅　鷄山　素因　自得　凉成　麥二　希言
猿左　柳莊　若翁　如毛　帛枚　素蘖　一茶　若人
雲帶　何丸　壺伯　何賴　六曹　文兆　路人　五什
乙堂　錦江　吐丈　鸞岡　州司　隱市　壯厚　春明
芦菴　伯先　伯民　可考　田山　玉芝　木鷄　月巢
香都良　可笑　汝蘭　春甫　正阿　柯香　介亭　丈馬
路因　美歌　一之　桑雄　武曰　一考　文路　春耕
素鏡　左皐　意吉　春明
上野　朔宇　眠醉　兎山　三巴　如白　雨什　班雪

素輪　秀和　風狂　麥泉　霞雉　壺半　浦入　鹿太
茅磨　双烏　北尾　碓谷　鶏秀　百童　微風　井徳
其雲　射毛　笋露　布什　是牛　杆臼　澤雉　六花
許一　川二　霞龍
下野　素磨　胡國　紫桂　真変　魚文　北斌　道澄
尺樹　其大　柳起　雄尾　竹大
陸奥　鬼子　鬼孫　祇川　明之　言左　一至　浣素
芳角　危言　蠶来　青二　緑木　麥羅　至岳　麥洲
長白　北遠　露秀　鐵仙　五角　蒼里　吏仙　南陽
三徑　八風　乙因　鶏路　白居　凉秀　露超　巣居
宮巷　南山　乙二　冥〻　素郷　平角　雄潤　曰入

本狩　亞笛　不圖　律大　負中　如蘭　祖庸　雲呂
吾石　雨考　與入　冥也　布席　百非　大呂　如髮
紫明　椨明　きく　呑濱　巾羅　画鶴　見車　秋夫
北濱　左龍　十竹　世竹　買月　東齋　文郷　萬象
馬年　芙蓉　寛兆　玉之　子孝　董平　守中　襲兄
獨酔　魯冠　都龍　竹路　瓜雄　奥童　数石　深耕
烏秀　文翠　斗木　一鼠　蘿狀　等舟　凡鳥　魯臺
寸雅　董車　草也　雨舫　天民　青良　燕川　蘇山
蘭臭　夢南　東芽　三及　士由　谷雄　月哉　女人代
柳郊　草琚　几隠　俳佛　調雅　寸車　杢枝　長寸
其爪　乙調　玉筍　調琯　左来　卓堂　蓬寸　旦茄

恵郡　巨山　桑布　了童　鸞子　文冲　馬令　心阿
岡虎　空明　春魯　梅子　廬〻　尺山　呂蝶　突〻
風虎　柯亭　蘭翠　北鳳　石丈　魚遊　無樂　無底
桐水　澤鵞　瓜碓　南平　菊路　調喜　二蘭　旭水
雄飛　五朗　三里　視月　素来　美都良　琴二　蓬山
壺春　無外　一木　文桑　松鳴　海樂　英二　白泉
和鳴　西琵　子容　盧外　汲古　呑鳥　朴鶯　蛙眼
勝丸　一二　維新　本光　昊峯　草坡　乙丸　志順
一栁　一蛾　彦賢　文何　玉息　柯國　橋両　春岱
白扇　岐山　芳齋　東丸　伊山　星德　沾橋　梅其
太乙　茂〻　春翠　はゆ〻　春〻り　旭〻　可遊〻　當麻

栁　千賀　亀丸　東峩
出羽　真松　淇水　鸞窓　好和　壺中　五明　素風
小野人　五瓢　野松　仙凧　渭虹　五貢　杜鶯　淋山
祖六　几峯　阿蔵　可来　渭翠　峯梅　佐〻　有鮮
桃史　大永　河道　蘭丈　吳石　稲丸　文明　木子
佳水　之玄　和友　巴陵　尋風　楓二　仙友　永我
かり　古翠
播磨　山李　梅廬　尚平　青蘿　蝸國　五嶺　布舟
以友　雲關　玉屑　起蝶　脱貧　巴山　野泉　左龍
茶来　和三　一曉　周泉　桃岐　其圭　春宵　田實
亀仙　文鄉

美作　梅府　櫻左　朝竹　燕木　得山　月麿　龜年
備前　風角　松後　百花
備中　素秋　曲江　斗外　文里　楳關　叢一　掉歌
壽彦　五蓬　芦洲　素郎　晋和
備後　愚軒　奇蔓　嘯月　荒道　里因　蔵六　喜林
鶴鳴　南路　桃甫　方壺　蕭雨　東翠　遠三　柳翠
六五　一色　梨蝶　光壽　桃園　芝邦　柳
安藝　風律　歌彦　雙蚊　鶴老　玄蛙　凡十　可友
守柏　梅佛　五鹿　李石　素白　両岐　宇月　蹤史
南皮　荷香　文衣　圭雨　十六　三花　綾彦　共滴
稲焉　枝曉　雨丹　路宅　枕流　金蒲　嘯二　木容

呂調　茶隠　露月　其夕　千可　丈巴　其雪　雨竹
周防　舎剤　湖流　羽琴　為充　蘭臺　古梁　天民
百樹　春郷　一葉
長門　林風　憐霞　羅風　素道　花窓　月丸　里山
紀伊　萍左　水賓
淡路　青岐　氷虫　本長　花桂　荊玉　桂山　桃堂
岳龍　白英　春調
阿波　白理　青橋　葦泊　藍堂　鳴雄　弓雄　六珈
露井　呉雪　羊虫　土芳　菊峯　千化　寄桂　梅子
昔鮮　墨友　石蘿　菅六　九花

伊豫　随友　驢波　千鬣　芦舟　五粒　樗堂　静山
石鼎　蓍山　米年　其松　其遊　吳天　春峨　祈流
花明　至江　白雅　梢雨　子鳳　五搞　磊〻　送秋
九万里　文侑　其梅　瓜六　有極　吾好　紀及　湖芳
土佐　瀨江　雲江　杜洲　茂推　周雨　糸月　宗德　桃里
讃岐　霜操　里渊　嵐流　蟻行　鷺白　貫色　玉壺　宵我　東烏
若狭　鬼木　壽卜　時雨雄　一烏　補石
越前　連漪　巴丈　桃因　哥川　重葉　虚白　白鮮
五鳥

越中　荻人　麻父　听之　梅此　李布　一庸　不丈
鳳吹　点吹　正武　岨邑　竟蝶　陸史　其汀　周叅
吳山　嵩平　壺仙　逸鳥　如空　魚心　白年
越後　牧童　七里　青阿　喜年　左釆　幽晴　石海
祖明　路丈　岐東　桃路　文高　吳洋　史千　國丸
由都留　路十　年眉　鷺洲　竹童　子減　其静　一方
蓬仙　山之　松魚　右之　竹里　敬山　此江　東栽
秋帆　二川
能登　見推　寒崖　司驢　晩嶺
佐渡　丈雄
加賀　布因　千代　大瞻　甚化　正哥　桐史　後川

菴仙　麥水　豐水　ナヽえ　佛仙　斗入　松井　眉山
甘谷　車大　鹿古　其友　稻守　半島　江涯　松花
馬佛　梅入　烏平　五葉　音入　ゝ
丹波　滄洲　武陵　野揚　春涯　白路　桃子　六合
夏皐　梧朗　松美　東眉
丹後　端雄　南畝　馬吹　東陌　竹圃　尺布　似藻
巍道　萬籟　垂耳　昌平　蘿水　燕良　魚眼　栢之
桃之　文白　春湖　冬鶴　潮花　弥芳
但馬　髭風　野牛　寒秀　松居　尚古　鸞崖　南飛
可笑　水卯　菊莽　黄貫　月波　有城　鳳兮
因幡　秋菴　雷師　村之　無関　千溪　南溟
伯耆　魯竹　亞来　眠月　豐明　歸来　沾雪　湖水
出雲　沾嶺　風水　花舟　搞丸　富峯
石見　梨明　古徑　露月　梨雪　英月
筑前　向水　雨銘　江棧　吾風
　　一招　石蘭　甫尺　莫二
　　危詞　蝶醉　一萍　瓢風　吳来　古溟　五朗　瑞芝
　　北溟　柳左　丁〻　巳蘭　浮玉　臥山　玉我　湖柱
　　金花　石瞬　再可　可十　杏池　如来　計子　雲平
　　里帆　麥吾　撫節　哥舌　可升　魯白　寒鴻　李仙
　　松雄　求古　二蝶　赤秋　其柳　泉左　紅藜　万年
　　吾成　白志
筑後　双烏　其成　文角　東鶴　與洲　鉄舟　葵足

洪水　良岱　慶五　輪兆　樫妥　龍白　方舟　芦月
米汝　温古

豐前　夏推　李堯　應律　些芳　渭水　了國　温水
桂川　箕笠　静齋　秋水　南明　文鷲　大室　一峯
石亭　兎園

豐後　不驚　子駿　頭水　斗周　蘭里　有堂　月代
葵亭　杜由　蝸茗　此柱　南溟　一幹　臨霞　春坡
菅之　楚濤　淇流　花六　真澄　年々　竹枝　龜方
月英　五城　桃序　雙阜　魚舌　斗林
肥前　枕山　盧風　李溪　蘭圃　加十　春亭　文鯉
甲乙　幽雅　清洪　天外　祥禾　鞍風　菊也　其映

天馬　吾友　一路　文兒　大我　玉阜　定太　金波
文淵　恕交　忍口　春高　虎瞰　要　有太　可笑　米蟲
可交　ほめ　琴松　梅調　五英　三津名　上音　周作
肥後　綺石　潭月　砂童　眠石　文曉　一壺　仙斧
崔渚　有汝　岫丸　釜麿　蟻城　三考　菊思
日向　塘雨　真彦　竹堂
大隅　雲道
薩摩　鈴々　三桃　斐文　龍門司　琴州　青梁　只冬
巴水
壹岐　三千雄
對馬　花晩　戯蝶　杜洲　仙瓢　曙堂　玉之　我笑

琴松

小豆島　島芽　無物

八丈島　風宜　孤雲

國名不分明　追可考

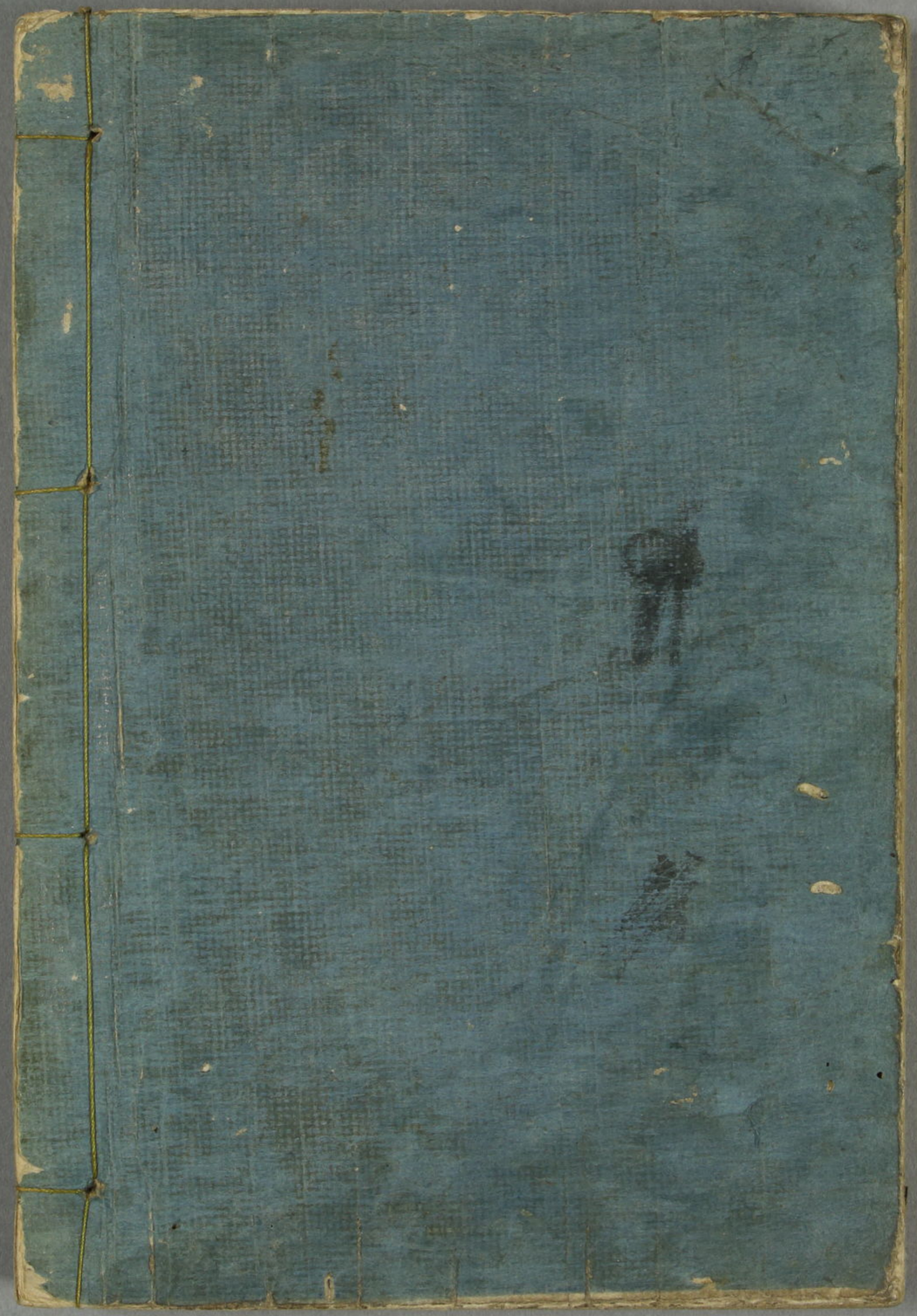
梨鑑　蔦雫　万艸　吏荆　青丈　茂秋　麁徒　花竹

奇文　和道　鋪雪　秋坡　雨葉　松壁　蒼鷹　周竹

統計二千七十二人

文政三年庚辰三月刻成

江戸四日市廣小路

書物問屋　上總屋利兵衛梓

培蘭